



# 滯電

1996. 4 No. 17

## 目 次

会長ご挨拶（櫻井良文）…………… 1	講座紹介 ……………24
滯電会役員 …………… 2	母校のニュース ……………25
滯電会だより …………… 4	教室情報 ……………28
話 題 ……………13	会員の方々のご活躍 ……………31
退官された先生方の近況 ……………17	同窓会だより ……………33
卒業生の近況 ……………18	卒業生氏名（就職先）……………35
留学生の声 ……………22	入学者氏名（出身校）……………37

大阪大学工学部電気系 滯電会

平成8年4月

## 平成8年度滯電会総会・懇親会ご案内

滯電会会長 櫻井 良文

拝啓 陽春の候、会員の皆様にはご健勝で益々ご活躍の事とお慶び申し上げます。

さて、平成8年度滯電会総会ならびに懇親会を下記のとおり開催致します。昨年は200名近くの卒業生や先生方が出席され大盛況でした。大学の先生方を交えて先輩、後輩、同期生の方々が一堂に会して旧交を温めつつ情報交換を行う絶好の機会でございます。また、総会・懇親会に合わせて日頃ご無沙汰の同期会を企画するのもよろしいかと存じます。現在、各方面でご活躍中の皆様方の原点は母校・阪大電気系であることを思い起こして頂き、お誘い合わせの上多数ご参加下さいますようご案内申し上げます。

敬 具

### 記

日 時： 平成8年6月7日（金） 午後6時～9時

場 所： 大阪梅田・新阪急ホテル（大阪市北区芝田1-1-35 電話06-372-5101）

次 第： 1. 総 会 午後6時～6時30分 「花の間」

2. スピーチ 午後6時30分～7時 「花の間」

「君子和而不同」

大阪大学工学部 教授 長谷川 晃先生

3. 懇 親 会 午後7時～9時 「紫の間」

会 費： 学部卒業昭和62年以降の方 5,000円

〃 以前の方 10,000円

会費は当日申し受けます。懇親会のみのご参加も歓迎致します。

準備の都合上、出欠のご返事を同封の葉書にて来る5月24日（金）までにお知らせ下さい。

会 長 櫻 井 良 文  
大 阪 大 学 工 学 部 電 気 工 学 科

## 会長ごあいさつ

滯電会会長 櫻井良文  
(電気・昭和18)



昨年はわが国で起こった出来事が世界の人々を驚かした年でした。1月17日に阪神地区を襲った大地震は6千名を超える死者、30万人以上の被災者を出しましたが、人口密集地帯を襲ったことによる不測の事態に情報伝達の不手際も加わって近代文明の幾つかの弱点を明るみに出しました。多くのボランティアに支えられて立ち上がりつつある被災地の方々には心からの支援を送りたいと思います。次に、3月の地下鉄サリン事件によって人々の不安を呼び起こした一連のオウム真理教事件も人を救う立場の宗教人による、しかも高等教育を受けた者も加わっているものだけに世界の人々の注目の的となり、後の処置もなかなか思うように進んでいない状況です。さらにバブル崩壊に始まる金融界の不祥事は事件というにはふさわしくない日本の経済界全体の問題になりつつあります。土農工商から100年でエコノミックアニマルにまで走った日本人の価値観は資本主義万能に歯止めをかけられないのでしょうか。金融界の人々は汗を流して働く事からは遠く離れ、自分達のしたことの責任を自分らの給料から償うという発想すらないのでしょうか。こう考えていくと学校教育から修身や道徳を消していった戦後教育、宗教と科学についての論争の不徹底など現在の教育の不備があらためて見えてくるように思えます。

しかし、交通が高速化し通信網が発達して地球が小さくなった昨今、これからわれわれが生きてゆく道はと考えるとやはり科学技術の振興ということになる筈で、それには教育が大切だという結論になります。昨年末には科学技術基本法が国会で成立し、科学研究費も大幅に増加されて大学での研究が奨励され、また国立主要大学では大学院を主体とする新体制が発足しました。本会報16号の「母校のニュース」欄に紹介されたように大阪大学工学部でも4つ

の系に再編されたシステムがスタートします。一部でささやかれている“理工離れ”を克服してアジアの諸国にも手本となるような教育体制を作っていかなければなりません。

わが滯電会も北陸・四国・九州・中国・東海・東京の6つの支部でそれぞれの総会を期に見学会などを開催して地方会員の連携・友好を深めると共に、昨年11月には関西電力大飯原子力発電所の見学会を通じて会員相互の親睦を図ってきました。このような催し物で特に気が付くのは昭和30年代に発足した基礎工学部の卒業生の扱いです。卒業生を生むようになってからまだ20年ですので卒業生の数も少なく、地方では滯電会に出て下さる方もいますが、遠慮して出席して良いかどうか迷っておられる方も多数おられます。私も工学部と基礎工学部とに各々20年ずつ勤務しましたので、本部の方でも基礎工学部の電気系の卒業生にも入って頂くように交渉していますが、地方会員の方々にもせいぜい出席するようにお勧めして頂ければ幸いです。

理工系の学生は真面目さと共に暗いと言われますが、今後は人間関係の良さが大切になります。このような意味でわが滯電会の存在意義は今後ますます大きくなる筈です。

最後に、卒業して間もない後輩に対して一言言わせて頂きます。大学を出て暫くは、勤務先での身のまわりの環境に対応することに精一杯で、同窓会にまで気がまわらないということもあるでしょう。また、若いうちは目上の人との付き合いに疲れると思う人もいるでしょう。しかし、人間関係の大切さは年を経るに従って分かってくる筈です。今は何となく億劫に思われても、人間関係向上のため是非集まりには顔を出しましょう。

## 滯電会役員

平成7年度滯電会本部および支部役員としてご尽力頂いた方々は下記のとおりです。(○印は本年度新たに就任された役員、敬称略)また、滯電会支部としては、東京、名古屋、北陸、中国、四国、九州支部が活動を行っています。役員氏名の他に、本部および各支部の連絡先を付記してありますのでご用の節はお気軽にご連絡下さい。

### [本部]

#### 会長

櫻井 良文 (電気・昭18) 大阪工業大学

#### 副会長

○山中千代衛 (電気・昭23) 姫路工業大学

倉岡 澄 (電気・昭22) (株)東海コンクリート工業

小島 卓哉 (通信・昭22) 芝浦工業大学

三上 彦三 (電気・昭23) 中電工業(株)

満保 正喜 (通信・昭25) 富山県立大学

河村 寿三 (電気・昭29) 福岡工業大学

山下 一彦 (電気・昭31) 四国電力(株)

○白藤 純嗣 (電気・昭34) 阪大・電気

#### 幹事

尾浦憲治郎 (電子・昭39) 阪大・電子

藤岡 弘 (通信・昭40) 阪大・情報

○平尾 孝 (電子・昭40) (株)松下テクノロジーサーチ

○中塚 正大 (電気・昭41) 阪大・レーザー

○前田 肇 (通信・昭41) 阪大・通信

鈴木 龍司 (通信・昭43) 三洋電機(株)

鷺野 翔一 (電子・昭43) 三菱電機(株)

梅村 忠一 (電気・昭45) 三菱電機(株)

○小牧 省三 (通信・昭45) 阪大・電気

加藤 和彦 (電子・昭45) 関西電力(株)

谷口 研二 (電子・昭46) 阪大・電子

恩智 要三 (電気・昭47) (株)日立製作所

四方洋一郎 (通信・昭47) 日本電気(株)

中村 誠 (通信・昭47) (株)東芝

○藤本 雄一 (通信・昭47) オムロン(株)

○宮尾 孝治 (電子・昭47) シャープ(株)

○河崎善一郎 (通信・昭48) 阪大・電気

田中 和浩 (電気・昭49) (株)ダイヘン

吉村 文彦 (電気・昭49) 住友電工(株)

松田 成就 (通信・昭49) 日本電信電話(株)

○志方 隆司 (電気・昭50) 富士通(株)

○乗松 孝好 (電気・昭50) 阪大・レーザー

○樺澤 哲 (通信・昭50) 松下電産(株)

○永田 俊之 (通信・昭50) 三洋電機(株)

○河田 謙一 (電子・昭50) 関西電力(株)

○山本 正弘 (電子・昭51) J R西日本(株)

小川 潤三 (通信・昭52) シャープ(株)

○西川 満 (電子・昭52) 住友電工(株)

中前 幸治 (電子・昭52) 阪大・情報

○松本 正行 (通信・昭57) 阪大・通信

連絡先：〒565 吹田市山田丘2-1

大阪大学工学部電気系内

滯電会事務局 安井晴子

TEL 06-879-7789 (ダイヤルイン)

FAX 06-875-0506

[東京支部]

支部長

小島 卓哉 (通信・昭22) 芝浦工業大学

総会幹事団体 住友電気工業株式会社

幹事団体代表 吉田 健一 (通信・昭39)

事務局

〒244 神奈川県横浜市栄区田谷町1番地

住友電気工業株式会社

オプトエレクトクス研究所

志賀 信夫

TEL 045-853-7263 FAX 045-751-1787

E-mail: nshiga@yklab.sumiden.co.jp

[名古屋支部]

支部長

倉岡 大澄 (電気・昭22) 大畑・大京

東海コンクリート工業(株)

連絡先

〒465 名古屋市名東区上管 1-618-1

TEL 052-772-4335

[北陸支部]

支部長

満保 正喜 (通信・昭25) 富山県立大学

代表幹事

松田 秀雄 (電子・昭43修) 富山大学

連絡先

〒930 富山市五福 3190

富山大学工学部基礎情報工学科

TEL 0764-45-6746 FAX 0764-41-8432

[九州支部]

支部長

河村 寿三 (電気・昭29) 福岡工業大学

代表幹事

金藤 敬一 (電気・昭46) 九州工業大学

連絡先

〒820 飯塚市大字川津 680-4

九州工業大学情報工学部電子情報工学科

TEL 0948-29-7664 FAX 0948-29-7651

[四国支部]

支部長

山下 一彦 (電気・昭31) 四国電力(株)

代表幹事

坂本 明雄 (電子・昭46) 徳島大学工学部電気電子工学科

連絡先

〒770 徳島市南常三島町 2-1

徳島大学工学部電気電子工学科

TEL 0886-56-7482 (直通)

FAX 0886-56-7471

sakamoto@ee.tokushima-u.ac.jp

[中国支部]

支部長

三上 彦三 (電気・昭23) 中電工業(株)

代表幹事

山田 重勝 (電気・昭39) 中国電力(株)

連絡先

〒730 広島市中区小町 4-33

中国電力(株)本店 CF21 推進本部

TEL 082-242-7081 FAX 082-242-5980

## 滯電会だより

### 平成7年度総会・懇親会

平成7年6月2日（金）午後6時から大阪梅田・新阪急ホテルで228名の参会者を得て例年通り開催された。総会は杉野隆幹事（電気・昭47）の司会で開催された。櫻井良文会長のご挨拶の後、平成6年度事業報告が辻毅一郎総務幹事（電気・昭41）から、同決算報告が尾浦憲治郎会計幹事（電子・昭39）から行われ承認された。ついで櫻井会長から副会長に山中千代衛名誉教授（姫路工業大学学長（電気・昭23））を推薦することについて説明があり、拍手を持ってこれを承認した。山中先生は次期会長へご就任される予定となっている。先生は都合によりご欠席であったが、副会長就任に当たって参会者へメッセージをお寄せになり、辻総務幹事がこれを代読した。次に櫻井会長から白藤純嗣新副会長（電気・昭34）を始め15名の新幹事が指名され、承認の後自己紹介が行われた。この後、尾浦新総務幹事から平成7年度事業計画が、前田肇新会計幹事（通信・昭41）から平成7年度予算案が説明され、いずれも承認された。総会に引き続き恒例のスピーチが行われた。本年は電気工学科の白藤純嗣教授から「兎の足、亀の足—固体の中の電子の速さを測る—」という題目でお話を頂いた。先生の研究の中からアモルファス半導体中での電子の振る舞いについて述べられ、生き物の運動速度から電子の速度まで各々の質量と関係付けて紹介されたのが印象的であった。懇親会は辻総務幹事の司会進行で行われた。櫻井会長のご挨拶の後、関西電力㈱副社長北田幹夫氏（電気・昭28新）ならびに新副会長の白藤純嗣教授からご祝辞を頂戴した。各支部から頂いた祝電の披露の後、滯電会元会長の山口次郎先生（電気・大15/昭7）の音頭で乾杯し、賑やかな歓談のひとつきを持った。最後に副会長九州支部長の河村寿三氏（電気・昭29）のご発声で万歳三唱を行い、盛況の内に散会となった。



（辻 毅一郎（電気・昭41）記）

### 京大・阪大電気系スポーツ大会

第38回（平成7年度）京大・阪大電気系交歓スポーツ大会は、京大が幹事校となり、去る平成7年7月21日（金）に関西電力㈱水無瀬体育施設で行われました。本年度は、両校合わせて150名余が参加し熱戦を繰り広げました。両校のバスが会場に到着すると、早速開会式が行われ、京大側を代表して松重和美教授が歓迎の挨拶を、阪大側を代表して池田博昌教授が挨拶をされました。優勝杯が返還された後、進行役である京大の萩原朋道助教授による競技の説明が行われている最中に会場一帯が雷を伴う強い雨に見舞われ、急遽屋外の種目（野球、ソフトボール、テニス）を取りやめにして、代わりに綱引きやバドミントンで決着をつけることになりました。

開会式が終了した後は、体育館で賑やかな応援と共に競技が開始され、スポーツによる快い汗を流すことができました。次のような戦績となり、ここ数年來の幹事校が総合優勝するというジンクスを破り、阪大が総合優勝しました。

競技種目	阪大	京大
野 球	4	3
ソフトボール	6	1
テ ニ ス	4	4

バレーボール 1 2  
卓球 10 1

総合成績 3勝1敗1引き分け

スポーツ大会終了後、施設内の食堂で、京大の中島將光助教授の進行のもとで懇親会が盛大に行われました。京大の田丸啓吉教授の開会の辞、阪大の松浦虔士教授の乾杯の御発声に始まり、京大の松重和美教授による戦績報告、優勝杯の授与の後、両校競技監督のスピーチがありました。引き分けになったテニスについてはじゃんけんで阪大が優勝杯を預かることになりました。祝杯等、終始和やかな歓談のうちに会は進行し、スポーツ大会本来の目的である両大学電気系の親睦を深めることが充分できました。最後に次年度幹事校を代表して阪大の西尾教授が挨拶を行い、京大の安陪稔教授による閉会の辞をもって散会となりました。

なお、野球については、実際に野球戦での決着をつけようということになり、後日10月20日(金)に京都御所公園グラウンドで再試合を行いました。結果は9対2で再び阪大の勝ちとなり、晴れて阪大側が優勝杯を預かることになりました。

毎年恒例の本スポーツ大会もそろそろ40回目を迎えようとしております。このような行事を通じての友好関係の深まりによって、両大学電気系の教育・研究に関するさまざまな共同プロジェクトへと進展することが期待されます。

末筆ながら、このスポーツ大会を行うに当たり、落電会より10万円の御寄付を頂き、また、各講座からご援助を賜りましたことをここに厚くお礼申し上げます。

(西尾章治郎(情報システム)記)

## 平成7年度見学会

平成7年11月1日(水)に恒例の落電会主催見学会が行われました。本年度は関西電力のご厚意により、大飯原子力発電所と若州一滴文庫を見学させていただくことになりました。大飯原子力発電所は昭和54年から稼働し、4台の原子炉から合計471

万kW/hの電力を供給すると共に、実物の3分の1の模型を備えた「おおいり館」や近代的なシースルー見学設備を合わせ持つ関西最大の原子力発電所です。

バスと42名の参加者は予定通り9時前にホテル阪神の駐車場を後にし、中国道を経由して舞鶴自動車道へと向かいました。途中、阪神大震災の影響で宝塚トンネルが渋滞することも予想されましたが、幸いにして大した渋滞も合わず、バスは一路西へ。車中ではおつまみと飲み物が配られ、若干とちりながら大阪弁まじりで話すバスガイトを肴に話が弾みます。紅葉の始まった播但路を一挙に走り抜け、赤煉瓦の倉庫が並ぶ舞鶴を通り抜けたところで昼食となりました。

乾杯の前に櫻井会長のご挨拶となりました。本来ならここで会長の含蓄のあるお話に触れておかなければならないのですが、実はこのとき、記録に使っていたカメラにトラブルが発生し、誠に申し訳ないのですが、カメラの液晶の文字が消えるとともに会長のお話も脳裏から消えてしまいました。

慌てて店の人に近くのカメラ屋さんは無いか尋ねると、歩いていくには遠いからと快く車を出してくれました。結局カメラは復帰できなかったのですが、店の人の親切に励まされ、原子力発電所へと向かいました。

青戸大橋を渡り、若狭湾を右に見ながら急カーブの続く半島沿いの道を一番奥まで行ったところに大飯原子力発電所があります。大飯原子力発電所は本学昭和45年卒業の小林一郎氏により技術的説明をしていただいた後、4号機のシースルー見学設備とタービンと発電機が納められた建屋を見学することができました。タービンからのうなりと近づくだけで肌に感じる熱気に関西に471万kWの電力を支える力強さを実感しました。

発電所見学後は佐分利川近くの谷間の小高い丘に寄り添うようにたたずむ若州一滴文庫を訪れました。若州一滴文庫は水上勉氏が主催する竹人形文学の劇場と同氏の蔵書2万冊を展示したもので、代表的作

品金閣炎上の原稿なども見ることができます。当日の水曜日は本来なら休館日ですが、大阪からの見学と言うことで、特別に開館していただいたと聞かされ、若狭の人の親切を再び感じました。

帰路は阪神高速が渋滞したことを除き順調で、「お疲れ様のため息とゴミはバスの中に残し、お土産と思い出はお忘れないようにお持ち帰り下さい。」とバスガイドさんの言葉とともに、見学会を無事終了することができました。原子力発電所の力強さと若狭の人の親切が印象に残る見学会でした。

(乗松孝好(電気・昭50)記)

### 卒業祝賀・謝恩会

恒例の卒業祝賀・謝恩会が卒業式当日の3月25日午後6時より千里阪急ホテル仙寿の間で取り行われた。学部および大学院の新卒生310余名と、ご来賓、電気系教職員、滞電会役員の方々をあわせて参加者総数400余名にのぼる盛況ぶりであった。式典は小牧省三担当幹事(通信・昭45)の司会により進められた。まず滞電会を代表して、櫻井良文会長(電気・昭18)から祝辞が述べられ、引続き来賓祝辞を大阪大学前総長・熊谷信昭先生(通信・昭28)および(株)島津製作所常務取締役・田原康雄氏(通信・昭33)から頂いた。熊谷先生は「創立100周年に巣立つ卒業生の21世紀への飛躍」を述べられ、田原氏は「激動の時代の活力ある企業人への期待」を説かれた。つぎに、電気系四学科の教職員を代表して電気工学科長・松浦虔士教授(電気・昭35)より祝辞が述べられた。引続き、担当幹事の河崎善一郎助教授(通信・昭48)の司会のもと滞電会前会長・成松啓二氏の乾杯で祝宴に入った。会場内では卒業の喜びを顔一面に表した卒業生が、仲間達と、指導教官と、また秘書嬢達となごやかに歓談する風景がいたるところで見られた。宴たけなわのころ楠本賞受賞者、沈国華君、松田崇弘君、中尾啓君、亀野弘昭君の4名に櫻井良文滞電会会長より記念品が授与され、引続き恒例となっている福引きが行われた。最後に電気四学科卒業生を代表して、電

気工学専攻博士前期課程の森本雅和君が謝辞を述べ、滞電会副会長・山中千代衛氏の万歳三唱で閉会となった。

本年度も、卒業祝賀・謝恩会をこのように盛会に挙行することができました。会の準備のために種々ご協力いただきました役員をはじめとする滞電会会員の皆様、ご多用中にもかかわらず快くご臨席賜ったご来賓の方々、電気系教職員の方々に厚くお礼申し上げます。また日頃から滞電会をお世話下さり、この会のためにも準備段階から当日受付業務までお世話下さった安井晴子様、世話役としてお手伝いいただいた学生諸君、電気系秘書の方々に厚くお礼申し上げます。

また、記念品、福引きの景品を快くご提供下さいました以下の各社に心よりお礼申し上げます。

(株)松下テクノリサーチ、三洋電機(株)、三菱電機(株)、関西電力(株)、日立製作所(株)、日本電気(株)、(株)東芝、オムロン(株)、シャープ(株)、ダイヘン(株)、住友電工(株)、日本電信電話(株)、富士通(株)、松下電器産業(株)、JR西日本(株)

(前田 肇(通信・昭41)記)

### 平成7年度北陸支部総会報告

平成7年度第6回滞電会北陸支部総会が6月17日(土)午後3時から富山県職員会館で開催された。総会の前、支部の行事として約27人の参加を得て午後1時半から北陸電力(株)のご好意により同呉羽試験農場を見学した。ご来賓としては滞電会の櫻井良文会長、元会長の山口次郎先生、同じく尾崎弘先生、滞電会幹事の尾浦憲治郎先生、白川功先生、事務局の安井晴子さんに参加頂いた。同農場では、施設園芸における電気の有効利用を目指して、ヒートポンプによる水耕栽培などの実証試験に取り組んでいる。即ち、カーネーションなどの花の水耕栽培を手がけ土耕栽培との比較を行っており、これは全国的にも珍しいものである。そして農業関係者を対象にした水耕栽培の体験や研修用の温室があり、ここでは栽培ベッドが移動式になっており面積の有効利



用を図っている。又、多段式野菜工場では光が均一に当たるように工夫され、栽培ベッドが回転式になっているのが見られた。更に、バナナ、ブーゲンビリヤなどの熱帯植物も栽培しており、なかなか目を楽しませてくれるものである。放任栽培温室ではファーストトマト、ミニトマトなどの果菜類は一本の幹から屋根を蔽うように四方へ枝分かれし、最適な環境で水耕栽培し、長期間に渡り収穫する栽培をしている。そして、赤い屋根のメルヘン調の展示館には展示ホール、講習室、休憩ロビーが整っており、楽しみながら理解を深めることが出来、電力会社の隠れた社会貢献を見たような印象を受けた。

この後、職員会館へ戻り、総会后、懇親会を開催した。会長の仁徳溢れるご挨拶、ご出席の各先生方のご挨拶を頂いた後、出席者全員の自己紹介、近況報告がなされ、和やかな中に会が進んだ。いつも感銘を受けるのだが、山口先生がお年を召して居られるのに拘らずお元気なのは我々に人生はかく生きるべしとお手本を示して居られるようで会場に居られる丈で華が咲いたようでした。又、本部の方から、通信工学科卒業生の鄭万永君が昨年4月21～22日に江崎玲於奈さん、アメリカの回路の大家等を招いて講演会を開催したと言う話が出た。これには驚いた。いささか個人的な関係になって恐縮なのだが、鄭君は小生の中学生時代の同級生で、彼は元の電気通信研究所（武蔵野）勤務後、韓国へ戻り、韓国通信技術研究所長の要職にあった。その彼が移动通信などの講演会を企画し、私は彼に移动通信の奥村曲線で有名な金沢工業大学の奥村先生を紹介し、奥

村先生がその講演会で講演をして居たからである。世の中はつくづく狭いものだと痛感した。

（満保正喜（通信・昭25）記）

## 平成7年度中国支部総会報告

○ 滝電会中国支部は発足以来2年が経過し、現在会員数は177名となっております。昨年度発足後第1回目の総会を岡山市で開催したのに引き続き、今年度は第2回目の総会ならびに見学会を平成7年12月9日、本部より櫻井良文会長、尾崎弘元会長、尾浦憲治郎総務幹事、事務局安井晴子様をご来賓としてお迎えし、総勢19名の参加を得て広島市で開催しました。

○ まず、午後2時に広島駅に集合し、バスで南区宇品西に去る9月に新築されたばかりの中国電力(株)広島計算センターに到着、同社の会員のご協力を得て最新鋭の計算処理センターを見学しました。

○ このセンターは中国電力の電気料金計算を始めとする諸業務の機械処理を行うところで、最初に1階事務室で概要説明を受けた後、データ整理室、総合監視室、コンピュータ室、プリント室等次々に最新鋭の設備を見学し、最後に最上階のリフレッシュ室で夕日に染まる海と島々で織りなす壮麗で神秘的な瀬戸の内海を眺望、小休止して同センターを後にしました。日々の膨大なデータの搬入・搬出の自動処理装置、岡山計算センターを含めた総合監視制御システム、最新鋭の計算およびプリント処理装置、巨大地震にも耐えられる床免震装置等システムの近代化には目を見張るものがありました。

○ 午後3時半頃、会場を市内中心部の全日空ホテル



に移し、平成7年度総会を開催しました。最初は三上彦三支部長から開会の挨拶があり、続いて櫻井会長からご祝辞をいただくとともに尾浦総務幹事から母校の近況等をご紹介いただきました。引き続き議事に入り、平成7年度の事業計画、予算案、柏原輝夫常任幹事の死去に伴う山田勝常任幹事の選出について諮られ、全会一致で承認されました。

続いて懇親会に移り、尾崎元会長の音頭により乾杯し、懇談に入りました。出席者の間では近況を含めた情報交換や旧懐談に花が咲き、何時しか予定の時間も来ましたので、最後に平野慎太郎先輩の音頭で乾杯し、名残つきせぬまま来年の再開を期しての散会となりました。

(渡部 暁 (電気・昭60) 記)

### 平成7年度四国支部総会報告

四国支部は現在の会員数が約百名で、総会は今年で4回目となりました。これまでは高松市と松山市で交互に開催してきましたが、平成7年度は場所を変え、去る11月18日、本部より前田肇先生、尾崎弘先生、安井晴子様をお迎えし、総勢15名の参加を得て、愛媛県西条市および新居浜市で開催しました。

総会は坂本明雄支部幹事の司会で行われ、山下一彦支部長の挨拶に続き、前田先生から海外出張のためご出席いただけなかった櫻井会長からの御祝辞を賜るとともに、母校の近況についてご紹介いただきました。

引き続き議題の審議に移り、平成6年度活動実績、平成7年度活動計画などについて森田支部幹事から報告し、全回一致で承認されました。

今回の総会は、四国電力西条発電所において、見学会を兼ねて開催されました。西条発電所は2基の発電設備を有し、燃料の多様化を進めるため昭和58年度に石炭焚きに改造された合計出力406MWの火力発電所です。

総会の後、発電所次長高橋秀直様、伊藤隆行様(大阪大学工学部卒業生)の案内により、中央制御



室や西条発電所の特徴である貯炭サイロなどを見学しました。私事で恐縮ですが、当発電所の石炭焚き改造には私も直接携わっており、10余年ぶりに設備を見て感慨深いものがありました。

— なお、休日にもかかわらず出勤してご案内下さいましたお二方には厚く御礼申し上げます。

西条発電所見学の後、隣接する新居浜市の愛媛県立総合科学博物館を見学しました。当博物館は平成6年に完成したばかりで、広大な敷地の中に愛媛県の産業の歴史に関する展示館やプラネタリウムなどが設置されており、プラネタリウムでは日本最大級(直径約30m)のスクリーンに映し出される星の世界に、しばしの間童心に返る思いでした。

さて、見学会終了後、新居浜市内某所に会場を移し懇親会を開きました。大沢支部幹事の司会のもと、尾崎先生の音頭による乾杯で始まり、参加者一人一人の近況報告や思い出話などに花が咲き、時間の経つのも忘れて旧交を温めました。

最後の前田先生の音頭で万歳三唱し、次回の再会を約しつつ名残りつきぬまま散会しました。

(森田 博 (電気・昭48) 記)

### 平成7年度九州支部総会報告

落電会九州支部平成7年度総会(第4回)は、中国御訪問直後のお疲れも癒えやらぬ櫻井会長、尾崎元会長、尾浦総務幹事、安井事務局をお迎えして、冬の気配漂う九州シリコンアイランドは熊本で12月2日執り行われた。場所は三菱電機熊本工場、最近のマルチメディアを覗んで多忙を極めようとし

ているさなかにも拘らず、多くの大阪大学出身者の御助力を得て有意義な一日を送ることができた。九州の総会員数は百名を大幅に越すに至り、金藤代表幹事は学務多忙の中で大童の準備となった。

総会に先立ち、半導体工場（水津克己工場長）及び併設されている TFT（Thin Film Transistor）ディスプレイ工場（株式会社アドバンスト・ディスプレイ、杉本和彦会長）の概要説明を伺った後、ゴミ博士としても有名な福本製造管理部長の講話を拝聴した。福本博士のマイクロ・物性の世界のゴミ（コンタミネーション）との闘いにはエキサイティングなものがあった。次いでお得意の液晶カーテンを開いて最新設備の半導体処理工場を垣間見ることができた。所謂如何にも作ってますというライン化されたものよりは装置群の塊という感じに近い。TFT ディスプレイ・ラインも同様な印象である。ただ後者は空气中浮遊塵に対する管理はぐっと緩くなっているとのことであった。各種ディスプレイが展示されていたが何れも極めて鮮明なもので早く壁掛けテレビが欲しくなった。

総会では、櫻井先生からは提携校との関係で中国大連、旅順を御夫妻で御訪問されたエピソードを交えての、また尾浦先生からは滞電会の活動概要並びに平成8年度からスタートする大学院大学の学群（電子情報エネルギー系）の位置付けを御紹介頂きながらの御祝辞を有り難く頂戴した。

引続き場所を工場の倶楽部に移しての懇談に入った。冒頭尾崎先生の蘊蓄と気合いの籠った御挨拶を頂いて乾杯、その後の交流、談笑、自己紹介等尽き



ない話題の一時を持つことができた。

翌12月3日は、杉本 ADI 会長自らの御案内で櫻井先生の奥様も合流して熊本の歴史・産業・自然に触れる機会を得た。熊本城、細川ガラシャの墓、水前寺公園、冷たいガスの中の阿蘇路、白川水源の美しい水等を訪ねた後、また来年度へ向けての情報発進を誓って別れた。

（河村寿三（電気・昭29）記）

## 平成8年度東京支部総会報告

平成8年3月27日（水）、平成8年東京支部総会が郵便貯金会館・メルパルク東京にて開催されました。本部から櫻井良文滞電会会長をはじめ多くの先生方・関係者の方々にご出席を頂くと共に、工学部電気系・基礎工学部（電気、制御、情報）卒業生を含む支部会員の多数の参加があり、130名の盛会となりました。

総会は小島卓哉支部長のご挨拶、今回の幹事会社である住友電気工業㈱の代表幹事・吉田健一の挨拶で定刻通り開始されました。次いで、櫻井良文会長からご挨拶があり、3月25日に卒業生の祝賀会が開催され、電気工学科の楠本賞をシンガポールからの留学生が受賞したとのお話がありました。白藤純嗣教授には大学の近況として、大学院大学化の状況が紹介されました。大阪大学では平成7年度から大学院重点化を進めており、平成8年度からは電気系の組織変更を含めた具体的な改革が行われるとのお話がありました。尾浦憲治郎教授には滞電会の本部・支部の活動についてご報告を頂きました。

以上で支部総会行事を終了し、尾崎弘名誉教授のご発声による乾杯で懇親会が始まりました。今回は東京支部長が交代するという記念すべき総会になりましたが、1時間余のにぎやかな歓談の後、新支部長の㈱日立製作所の竹本猛夫氏から就任のご挨拶がありました。そして次回幹事団体である三菱電機㈱の関川一彦氏の決意表明の後、池田博昌教授のご発声で万歳三唱を行い、盛況のうちに解散となりました。

## 平成8年 滞電会東京支部総会



今年、ご挨拶頂いた来賓の方々に加え、樹下行三教授、山中龍彦教授、森永規彦教授、河崎善一郎助教授にもご出席頂くことができました。また総会運営にあたり、色々ご助言、ご支援を頂いた前任の富士通(株)の事務局の方々、滞電会本部事務局の安井晴子様紙面に借りて厚くお礼申し上げます。

(小島卓哉(通信・昭22)記)

### 平成7年度滞電会ゴルフ例会

平成7年度の滞電会ゴルフ例会は例年どおり春、秋2回(5月27日(土)6組20人参加、10月21日(土)5組18人参加)で、開催された。

さて、この例会は平成3年度から関西電力(株)のご厚意により、同社の関係会社が経営する武庫ノ台ゴルフコースで毎年2回行われており、通算81回目を数える伝統的な例会である。

例会のキャプテンは、これまで最長老の山口先生が務めてこられたが、春の例会を最後に成松氏(電気・昭25)に交代された。山口先生は、秋の例会にはじめてご欠席になり、時にはフェアウェーを小走りにプレーされた元気なお姿が拝見できず、何度か例会でご一緒した私などにとっても寂しい限りである。

過去2回の優勝者は次のとおりである。

	区分	お名前	グロス	H・C	ネット
第80回	一般 シニア	中井 貞雄	90	15	75
		湯川 莊介	97	15	82
第81回	一般 シニア	後藤 業明	97	19	78
		藤井 克彦	87	16	71

第80回は中井先生が優勝と同時にベストスコア賞も獲得され、中井先生ご活躍の例会であった。第81回は藤井先生が一般およびシニア優勝(規約によりシニア優勝を優先)と同時にベストスコア賞も獲得されるなど、藤井先生が圧倒的な強さを発揮された例会であった。中井先生は“比較的年をとってからゴルフを始めた”とのコメントであったが、どうしてどうしてまだまだスコアを伸ばされそうな様子であり、藤井先生は“武庫ノ台は何度回っても難しい”とのコメントであったが、どこが難しいのかと聞きたくするようなすばらしいスコアであった。

プレーが終わった後、恒例の懇親会がクラブハウスで開かれ、お互いの健康と健闘をたたえあい和気相合の中、次の再会を約して盛会のうちに終了した。

なお現在幹事としては白川功先生(電子・昭38・阪大教授)、和栗仁氏(電気・昭28・京都ダイヘン)と私・中川興史(電気・昭42・関西電力)がお世話させていただいております。次回の第82回例会は6月1日(土)に同じ武庫ノ台ゴルフコースで行われる予定ですが、皆様のご参加をお待ちしております。

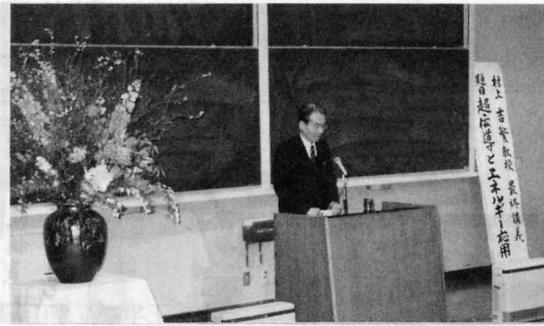
申込は、はがきにお名前、卒業の学科、卒業年度、連絡先(住所、郵便番号、電話番号)を書いて滞電会事務局にご連絡ください。

会員登録の上、申込み先着28人まで受け付けます。

(中川興史(電気・昭42)記)

### 村上吉繁教授最終講義・退官記念パーティー

超伝導エレクトロニクス研究センター長の村上吉繁教授の最終講義が、平成8年2月1日(木)午後4時20分から午後6時まで、電気系メモリアルホー



ルにおいて行われた。まず最初に、電気工学科長の松浦慶士教授から村上吉繁教授の紹介が行われた。先生は、電気機器、パワーエレクトロニクスの分野よりご研究を始められ、超伝導エネルギー貯蔵のご研究に着手され、現在では超伝導エネルギー貯蔵に関する国内外の指導的な存在として知られている。その間、工学部附属超伝導工学実験センターの設立、同センターを全学の共同教育研究施設、超伝導エレクトロニクス研究センターへ改組・発展させることに身を呈してご尽力された。

最終講義は、西村正太郎先生、故犬石嘉雄先生、藤井克彦先生をはじめとする恩師やお世話になられた各界の方々への御礼の言葉で始められ、丹念にご準備された資料に沿って行われた。超伝導工学の広がりや樹に例え、大学の各工学分野を根とし、さらに低温工学の発展を基礎に超伝導工学が幹をのばし、各種応用分野を枝としてその先の幾つかの分野で花を咲かせつつある様子をご説明された。次に、超伝導工学に関連する科学技術の発展の歴史、超伝導発電機、そして先生がご研究に精魂を傾けられた超伝導エネルギー貯蔵に関する講義が行われた。特に超伝導エネルギー貯蔵に関して、先生が世界で最初にご提案されたGTOサイリスタによる超伝導マグネット制御の実験で全てのサイリスタを一瞬にしておしゃかにしてしまわれた際の失敗談や徹夜の実験の様子などを楽しそうにお話された。また、今後の課題として、超伝導のエネルギー応用のために先生がご提案されてきた極低温パワーエレクトロニクス、さらに最近、萩行助教授とともに研究が行われている高温超伝導体によるテラヘルツ域の超高周波の発振器

(55 (08 1991) 42 頁)

にも触れられた。

ゲーテの詩、「再び近づきたるよ、汝ら揺らめける姿たち、かつておぼろげなる我が眼に浮かびし者たちよ」を引用され、最初はおぼろげなイメージしかない中で研究を行っていくうちにだんだんとイメージが現れてくる、研究とはそのようなものである、ということをお説かれ、先生の研究に対する姿勢を伺い知ることができた最終講義であった。

平成8年3月31日をもって定年退官された超伝導エレクトロニクス研究センター長の村上吉繁教授の退官記念パーティーが、先生のご出身の電気工学科主催で、平成8年3月15日（金）午後6時より千里阪急ホテル、仙寿の間にて行われた。パーティーには村上先生ご夫妻ご臨席のもと、電気系、超伝導エレクトロニクス研究センター、レーザー核融合研究センターの教官など53名のご出席をいただき、超伝導エレクトロニクス研究センター、萩行正憲助教授の司会で進められた。

発起人を代表して白藤純嗣教授のご挨拶があり、村上先生のご経歴やご功績を紹介された後、西村研究室時代の同僚で、現在工学部長の鈴木胖教授がレーザーレーダの研究を一緒にされていた頃のお話や、ご病気を克服されて以後の他には真似のできないような村上先生の強靱さを讃え、また、美紀子夫人をねぎらう祝辞を述べられた。次に、電気工学科長で村上先生とは大学院修士時代の同輩でもある松浦慶士教授より理論を大切にされる先生のお姿などを紹介する祝辞があった。その後、4月1日より村上先



離任後の村上吉繁先生、そのまわりには多くの関係者

生の後を引き継いで超伝導エレクトロニクス研究センター長に就任された興地斐男教授のご発声で乾杯が行われ、食事に移った。

ご出席者の皆様には落ちついてゆったりとお食事を楽しんでいただきたい、という村上先生のお気持ちからテーブル席で座ったままでパーティーは進められ、和やかな食事の後、超伝導工学実験センターの設立に村上先生とともにご尽力された産業科学研究所長の岡田東一教授および文部省核融合科学研究所の山本純也教授よりスピーチがあった。岡田教授からは、超伝導マグネットダイナミクス実験装置導入の際の苦労話が紹介され、ついで「黒田節」の詩吟が行われ、出席者一同を堪能された。また、岐阜の土岐よりかけつけていただいた山本教授からは、超伝導工学実験センター設立後の研究室の様子が紹介された。その後、植田麻里子秘書よりブラームスのワルツより3曲とショパンの「華麗なる大円舞曲」のピアノ演奏のプレゼントがあり、会場の雰囲気盛り上がりさせた。続いて、教え子である三谷助教授と伊瀬より「超伝導とともに20年」と題して先生が超伝導エネルギー貯蔵のご研究を始められた頃から現在に至るまでの歩みがスライドで紹介された。最後に村上先生がお礼のご挨拶をされ、先生ご夫妻に花束贈呈が行われた。満場拍手の中、先生ご夫妻はご退場され、会場出口では出席者一人一人にていねいにご挨拶をされ、名残惜しい雰囲気の中、パーティーはお開きとなった。

(伊瀬敏史(電気・昭55)記)

### 平木昭夫教授最終講義

電気工学科教授・平木昭夫先生は、平成8年3月31日で定年退官されました。それに先立ち、「研究四十年 夢、まぼろしのごとし」と題する最終講義が、2月9日(金)午後1時より、工学部電気系メモリアルホール(E1-115号室)にて行われ、当日は、学内からだけでなく、卒業生や元研究生等学外からも多数の聴講がありました。電気工学科白藤純嗣教授が平木先生のご略歴を紹介された後、90分間の講義が始まりました。まず、半導体の放射線



損傷に関する研究において、「銅」との関わりに言及されました。次に、その研究成果が縁で米国のメイヤー教授と出合い、いち早く高速イオン散乱法による評価解析と関わるようになったが、その検出効率の向上を目指し、研究対象を半導体中の「銅」より半導体中の「金」に変更された結果、その約20年後にご自身で領域代表者を務められた文部省重点研究に取り上げられた「半導体と金属との低温界面反応現象」の発見につながったことを述べられました。さらに、この低温界面反応で形成されるアモルファス層との関連から、アモルファスシリコンの研究を行われるようになり、作製条件を変化させることにより微結晶シリコンが形成されることが判明したことから、同じIV属元素の炭素原子から「ダイヤモンド」が気相合成できると確信されて研究を遂行された結果、特別設備「半導体ダイヤモンド気相合成・評価装置」の設置につながったこと等を述べられました。益々御健勝な平木先生は、講義の最後に、「研究五十年 夢、まぼろしのごとし」と題する最終講義を、ご退官後赴任される高知工科大学にて、約10年後行いたい旨のお言葉で最終講義を終えられました。その後、長年のご指導に感謝の意を込めた花束贈呈が平木研究室柏川久美子秘書から行なわれ、聴講者全員の拍手に送られて会場を後にされました。主として半導体中の銅から、金、さらにはダイヤモンドへと変遷した研究について、先生の研究姿勢や人生感などにもユーモアを交えて言及された最終講義でありました。なお、最終講義の後、銀杏会館で平木先生を囲んだ懇談会が開催され、約2時間にわたり和やかな雰囲気懇談が行なわれました。

(伊藤利道(電気・昭50)記)

## 勝負士の心

富山県立大学工学部教授

### 満保正喜

(通信・昭25)



最近、羽生善治6冠王が谷川王将に4-0で勝ち史上初の7冠王に輝いた。知力、精神力、体力抜群とは言え、高熱で体調を崩しながらも、見事その栄冠を得たのである。対局終了直後の記者会見でも少しも奢る所も無く、淡々と平常心で話して居たのは、何とも言えない爽快さを覚える。彼は出生地の埼玉県所沢市から名誉市民賞授与の話を受けたが、「名誉市民賞のお話はありがたいが、私のような若い者は頂くわけには行かない。」との地道に歩んだ偉業に溢れる事もなく辞退した。

かつて、テレビジョンでウィンブルドン・テニスで無名の新鋭Aと優勝候補Bの準決勝戦を見た。誰もがBの勝利を信じたが、Aは無心にぐいぐい押し、2-0で勝ってしまった。私は勝負より、Bが試合中自制心を失った事を問題にしたい。試合中失敗した時、気持を平静に保つ仕種は一切無く、突然、両手を振り上げ集中不足な自分を責めるように手を振り上げ集中不足な自分を責めるように手を振り下ろし、「ギャー」と奇声を発し、何セットも取り乱していた。気力、技と体が一体になってこそ技が生きてくるのであり、心に動揺があれば当然技が鈍ってくる。Bのような大選手になれば、不利な試合になっても、自制して徐々に自分のペースに持ち込む力を持っている筈である。なのに取り乱していたのは基本的に平静さを保つ修練をしていないからであろう。このような精神力を含め総合的には負けたのだから仕方がなかろう。

日本古来の剣道や相撲の武道、華道等、日本を代表する〇〇道は総て禅、仏教思想に根ざしている。

そこでは、無心にとか、華道等では我々の周囲に自然を取り組むように絶えず精神的に努めて来た。剣道の試合で勝ち誇った残心の無い見苦しい引き上げ等があれば、例え、試合の技術上勝っても取り消されたりする。この事は剣の手法による人間形成上、礼儀作法とか精神面上の大切さを示すものである。上述のBの場合見苦しいと言う注意は一切無かった。バレー等外来のスポーツの試合中に相手がミスをしたり、ポイントを稼いだような場合に、選手達がコートの中で踊り上がったたり万歳をしたり、手を叩き合って喜ぶ態をよく見かけるが、これは無心の境地とか平常心で試合に臨むという態度から懸け離れ、余り頂けない。それは勝負に拘泥する結果であり、相手チームとの共存、相手チームの失意の心情を考えると無神経な喜びは許されるだろうか。一介の平幕の力士が大横綱を負かしても決して土俵の上で踊って喜ぶ等はしない。彼ら相撲取りにとり勝敗は力士生活に懸ける総てだが、試合の前後少しも動ぜず堂々としているのは真に立派である。

少し前、内之浦の宇宙研の実験センターでロケットを打ち上げた時の事である。このロケットの光学実験機器担当のカナダの若い技術者がロケット発射直後、機器がうまく動作しているのを見て、狭いテレメータ室内に大勢居る中で1人ワーワー大きな奇声を上げて喜んで居た。隣で聞いて居て、全く不愉快だった。この1機のロケットに1億5000万円も要しているので失敗は許されない。ロケット実験用機器の外にロケット本体を打ち上げる為にテレメータ等20近くの班の人達が失敗しないだろうかと固唾を飲んで見守って居り、うまく行くとそこでほっとしているのである。どこかに少しでも不具合があると、大問題になるから、失敗する班の事を思えば自分の所がうまく行ったと言って鞭喜びは出来ないのである。喜怒哀楽を端的に表現する西欧諸国の国民性内至、文化の違いから来るものであろうが、そんな緊張感の漂う中で例の技術者の欣喜雀躍するマナーの悪さにはほとんど閉口し、非常に無神経に感ぜられた。

## 大型計算機センター

大阪大学大型計算機センター

### 村上 孝三

(電子・昭46、M48)



民間企業の研究所に22年間勤めた後、昨年4月より母校に奉職しています。学術研究支援のための全国共同利用施設として7大学に大型計算機センターができてもう30年です。ダウンサイジングやネットワーク化という環境変化でもはやその役割を終えたような名前のイメージですが、それどころか最近では情報基盤作りに関する多くの難問が投げかけられ、その対応に少ないスタッフで奔走している状況です。計算機資源については、メインフレームの他に今までは主役の座にあるスーパーコンピュータ、ワークステーション、画像処理専用コンピュータ、パソコンおよびそれらの周辺機器等多様な機器の常に最新鋭なシステムを備え、プログラム開発、計算処理、結果の可視化、ファイルの管理等多様な利用形態に柔軟に対応できる環境構築に努めています。研究設備といえば猫も杓子もワークステーション購入となり、スパコンを自前購入する研究所も珍しくなくなったため大型計算機センターのユーザ数は確かに伸び悩んでいます。しかし日進月歩の機種を購入して使いこなす大変さと、購入費用よりはるかに安い利用料金で最新機器をサポート付きでかつソフトウェア開発支援まで受けられる大型計算機センターのサービスを今一度見直してみることが大袈裟ですが日本の先端学術研究の効率の推進のために必要ではないかと思っています。

大型計算機センターの最近のもう一つの重要な役割がネットワークとしての役割です。学内施設であるネットワークは全国共同施設としての大型計算機センターの使命には本来そぐわないのですが技術の適性から新業務として組込まれています。阪大の

ODINSは、マルチメディア技術として注目されているATMを導入した日本で初めてのネットワークです。7年度補正予算整備で更に全学的に156 Mb/sないし622 Mb/sの超高速通信が可能になります。SINETやWIDE経由で国内外につながっています。この他、大阪地域学術ネットワークORIONSの運營業務、小中学校を対象とする100校プロジェクト、オンライン大学プロジェクトなど多くの先進プロジェクトにスタッフが参画しています。

21世紀に向けた情報通信基盤とその利用技術の開発が世界的な課題になっている中で、日本の立ち遅れが指摘されています。米国のNII/GII構想の基になったギガビットネットワーク実験の仕事に関わっていたことがあります。コンピュータと通信のハイテク技術の研究という技術目標と、誰もがスーパーコンピュータを電話なみの簡単さで利用できるようにするという達成目標が明確になっていました。大学、キャリア、国研、メーカ、スーパーコンピュータセンター等が連携して大実験プロジェクトを推進し、この盛り上がり今日の米国の活性化につながったのだと思います。

大型計算機センターのユーザ登録にコンピュータを作る側の電気系の人が激減したという奇妙な現実があります。技術開発とその利用が乖離し、その両面を実践する場が少ないのは問題だと思います。4月からは情報システム工学専攻の協力講座になり、パーソナル情報通信に向けた新しいネットワークコンピューティング技術の研究環境を立ち上げるための研究教育体制を構築しています。コンピュータとネットワークの融合技術に関するわが国で数少ない研究実験の場として産学連携で皆様に活用していただく場にしたいと考えています。

(伊藤利道(電気・昭50)記)

## UHV/DC 送電変電機器の開発

三菱電機(株)  
電磁気システム事業部

仲西 幸一郎

(電気・昭46、M48)



私の机の前の壁には、東京電力(株)新榛名変電所に設置された長期課電実証用の UHV (AC1100 kV) 変圧器、GIS の写真パネルがかけてある。このパネルは UHV 送電機器の開発・受注・完成に対して社内表彰があり、表彰金の一部を使って記念として最近作成されたもので、プロジェクトに参画したわが社の製作所・研究所に配布された。東京電力(株)が計画している UHV 送電は、世界的に見ても最も高い送電電圧の1つで、遠隔地の電源から電力需要の大きい都心地区に高品質の電力を供給しようとするものである。UHV 送電は21世紀はじめに運転開始が予定されており、そのため1990年頃より重電3社で実用器の開発が本格化した。

また、UHV 送電プロジェクトのスタートから約半年後には、±50 kVDC 送電プロジェクトが開始された。この DC 送電計画は関西電力(株)、四国電力(株)、電源開発(株)の3社が実施しているもので、送電は四国と紀州間約100 km で行われる。日本では北海道～本州間にいままで±250 kV 送電があったが、今回は日本で最初の±500 kV 送電となり、2001年に運転開始が計画されている。DC 送電の方も送電機器では重電3社が参画したが、他の2社に比べてわが社は DC 送電に取り組むのは初めてだけに製作所、研究所がまさに一体となって取り組んだ。昨年、長期課電用機器が完成し、現在関西電力(株)山崎実験場で長期課電を含む種々の試験が行われている。

上記した2つのプロジェクトは、この分野に携わってきた関係者にとって久方ぶりの社内外の注目を集めたプロジェクトであり、一同大いに張り切って取り組んだ。両送電計画とも、先端的でかつチャレン

ジングな技術課題が盛り込まれており、技術者にとってやり甲斐のある仕事でもあった。つまり開発期間が比較的短いこともあり、関係者は2つのプロジェクトを抱え、まさに多忙な研究、開発の日々を送ることになった。

本文ではプロジェクト全体の熱っぽい雰囲気を伝えたいと思い、わが社のことで恐縮であるが紹介させて頂きたいと思う。両プロジェクトとも初会合から、他のプロジェクトとは違った緊張した中で奮いたつような雰囲気が行き渡っていた様に思う。送電機器の世界一流メーカーとして、立派な製品を世に出そうという空気は単にプロジェクト会議の出席者だけではなかった。紙面の都合で1例だけをあげれば、変圧器制作では、機器の輸送幅制限に対して約30%絶縁耐力を向上させる技術を適用し小形化を実現したが、そのために工場内の塵埃には格別注意し、ラインの清浄化の他、工場の工作者たちは定期的に塵埃量の調査も行い特別の注意をした。彼等からも、世界でトップクラスの製品を世に先駆けて出すんだと、という気概が強く感ぜられた。また、研究所も要素技術開発で参画し、特に DC 送電ではわが社にとって初めての開発ということもあり、基礎からの技術構築で大いに力を発揮することとなった。忙しい中にまさにやり甲斐のある仕事をやらせてもらったと感じている。

関係者全員の大奮闘の結果、両プロジェクトとも開発した機器は良好なテスト成績を示しており、順調に推移している。本プロジェクトの成果は、立派な送電機器を開発した他に、この分野の若干技術者の育成にも大きく貢献したのではないかと考えている。目の前にある写真パネルの横には、来年は DC 送電機器のパネルがならび、近い将来 UHV 変電所及び±500 kV 交直変換所として完成することが近いことを念じながら、筆を置きたいと思う。

## 通信と中年の夢

NTT

アドバンステクノロジー(株)

### 鈴木俊雄

(通信・昭44)



もう随分昔の話になりますが、工学部に進学した際、「何故通信工学科を選んだか」と言ったテーマで小論文を提出したことがあります。その時、『通信の発達により世界の人々のコミュニケーションが容易になること、お互いの理解が深まり、それが世界平和につながる。その様な意義の有る技術の発展に貢献したい』と云った趣旨のことを書きました。と言っても、何か書かねば、との思いで書いたようなところが有ったのでしょう。その後はそのようなことを書いたこともすっかり忘れてしまいました。

それから約25年経った1989年、ベルリンの壁が撤去され、91年にはソヴィエト連邦が解体しました。国境を越えたテレビ電波等から得られる西側の情報の浸透が、徐々に堅固な体制に穴を空けたと聞いて、20年以上前の自分の文章を思い出しました。オリンピックや文化交流による直接的な情報流入の影響も大きかった筈ですが、不断に民衆に流れる外部からの情報が、水滴が石を穿つ様に秘密主義的な体制に穴を空けたのかも知れない、と思うと、あの頃の稚拙な思いも多少は的を射ていたのかと、嬉しくなりました。そして通信の一層の発達がますますその傾向を助長するものと期待しました。しかし、その後の世界の動きは、期待とは全く逆の方向に向かい始めました。冷戦の集結が民族紛争と言う新しい対立を引き起こしたのです。何百年と続いてきた人間の対立・相互不信は、民族或いは国家という縛りが有る限り耐えることはないのかと、暗澹たる思いにかられました。ところが、ここ2年程のインターネットの爆発的

な普及が、また新たな思いを引き起こしました。インターネットの中では、誰でもがコミュニケーションの主体や当事者になれるため、世界中の一人一人が対等の立場に立てるし、「ホームページやフォーラムを通して共通の関心事で解放区に集まった人々(シチズンではなくネチズンと呼ぶそうです)は地球市民意識を持つ」と言われています。共通の関心事すなわち“好み”でつながれたいくつものフラットな関係のネットワークで世界が覆われるのです。このような“好み”によるネットワークにおいては、国境が無くなり、国という単位も重みが違って来ます。したがって、インターネットにより国や民族という縛りから人間が解放され、自分に忠実で、権威とは無縁の、自由で自発的な人々(野茂やイチロウ、神戸大震災で活躍したボランティアの若者達)がその代表でしょうか)がどんどん増えれば、何時かは世界平和という理想に近づけるのではないかという気がしてきました。

私は現在、PHSによるモバイルコンピューティングの開発に携わっています。PHSは最近、アジアや南米から注目を浴び、これらの国々からのNTT研究所への訪問や、モバイルコンピューティングの展示依頼が増えています。これらを通じて諸国の通信インフラの発展に微力ながら寄与出来るという喜びを味わうと同時に、インターネットを誰もが、どんな時にでも使えるようにするために、モバイルコンピューティングをどんどん普及させたいと、情熱を燃やしています。若い時に抱いた思いにあらためて勇気づけられ、このダイナミックな地球規模の変革の真只中で、今も仕事が出来るとの幸せを噛みしめている今日この頃です。中年よ夢を持ち続けよう。

## 退官された先生方の近況

児玉 慎三（近畿大学理工学部）

人間がいろいろな状況を勘案して下す判断や予測をソフトウェアとして見た場合、その「ソフト」はどのくらい優秀なものであろうか。ゲームに話を限ると、この「人間ソフト」は相当に優秀である。最近、チェスの世界チャンピオンのカスパロフ氏は、IBMが7年かけてプログラムをつくりあげ3分間で500億ステップの手を計算するというコンピュータを相手に、6番勝負を3勝1敗（2分）で制した。これと前後して、チェスより複雑なゲームといわれる将棋において、羽生善治九段が王将戦7番勝負に4連勝し、夢の7冠王を達成する快挙があった。羽生九段の成績は通算で7割6分、最近は8割を越す勝率というから、まさに無類の強さである。「羽生ソフト」がどのくらい優秀かをものがたるのに、彼自身「いま将棋の神様を相手にしても、飛車角落ちなら勝負できるでしょう」と述べている。プロを相手に飛車角2枚落ちで対等に勝負できれば、その人はアマ2段の実力といわれるから、羽生氏はコンピュータどころか神様という絶対的な尺度で見ても、相当に優秀な「プログラム」の持ち主ということになる。

さて、われわれに関係深い技術分野での人間の予測能力についてはどうであろうか。結論からいうと、10年程度より先の未来を対象にした「長期技術予測」について、ほとんどの場合その的中率は驚くほど低い。たとえば米国の経済誌フォーチュンは1959年特別号で60年代において実現されるであろう民生・産業分野の技術予測を行い、電子冷凍、家庭用面照明、がん治療の大きな進展、など15課題を挙げたが、そのうち実現したのは3件という結果である。わが国では科学技術庁が1971年を第1回として定期的な長期技術予測を実施しており、これは産業界、学界、官界の専門研究者数千名を対象に、課題選定から実現期間までデルファイ法により集計したもので、たいへんまじめな、専門家の総力の集約といえるものである。第1回の分については20年後のいま予測結果を検証できるが、的中率はこれまた低い。そこでは社会開発、情報、工業資源の分野で90年代の初めまでに実現されるとした課題が高速増殖炉、深層地下鉄、音声人力コンピュータ、など約200件が挙げられている。そして実際に実現したのは40件、部分的中を含めてもその中率は約25%という検証結果となっている。たしかに技術予測はたいへんに困難な作業である。技術の実現には、単に技術的な可能性だけでなく、われわれを取り巻く政治的・経済的・社会的な激動の期間をこえて、経済性や社会性といった障壁をクリアしなければならない。そう考えると長期予測的中率が20%程度というのは仕方なく、人間の予測能力はそんなところが相場であると思えてくる。

ところが、そう思う一方で、世の中には常人の域をはるかに越える予測能力を有する人間がいるのも事実である。1938年に核分裂現象が発見されたとき、ほとんどの物理学者がそのエネルギー源としての可能性に否定的であったなか、E. D. ローレンスだけは原子力発電を予測したという。またわが国の電気工学の先駆者である志田林三郎は、明治21年の電気学会設立に際し、「将来可能になる十余のエレクトロニクス技術」という演説を行い、そのなかで「高速多重通信」、「光利用通信」などその後ほとんど実用化されている重要技術の到来を予見している。明治21年はヘルツがやっと電磁波実験に成功したときであり、電波という言葉すら存在しなかった時代であることを考えると、まさに驚異的な予測であり、いまでも語りぐさとなっている。

このようないわば「スーパーソフト」の持主のプログラムには、どのような仕組や構造が組み込まれているのであろうか。そういえば勝負に没頭する羽生棋士は、意外にも人間の理性をつかさどる左脳より、むしろ感情やイメージの領域である右脳を働かせており、そこに大局観をつかみ「羽生マジック」と恐れられる妙手が生れる要因があるのではないかといわれる。どうもわれわれが人間自身の「ソフト」の仕組や潜在能力をもっと理解し、それらの結果を技術予測などに反映させるにはまだまだ時間がかかりそうである。

## 卒業生の近況

田中嘉津夫（通信・昭44、M47、D50）

熊谷研究室で、一般相対論的電磁波論ともいうべき、超アカデミックなテーマで学位を取り岐阜大学工学部に来てから20年が経ちました。その間、弾性表面波、放射線画像工学、光回路の計算機支援設計、と好奇心のむくまま、アイデアの浮かぶままに研究生生活を楽しんで来ました。光ファイバ干渉計による重力波検出という過激なテーマに熱をあげたこともあります。このように自由な研究ができたのも、周りの人に恵まれたおかげです。

6年程前に、電子情報工学科情報コースに移籍し、最近はそのコースの新設講座の人選をやらされる立場になりました。私も、僅か4ヶ月ですがオーバードクターの体験から、選ばれる人間の苦しさを知っています。しかし、優秀な候補者の中から、専門分野、年齢、等で教官を選抜するのも、大きな心の痛みを伴う仕事であることも知りました。

理論関係の研究では、40才定年説のような、歳をとった研究者に対する迷信が流布されています。このような迷信を言い訳にして研究を止めてしまう研究者がいたり、最近では、迷信に惑わされて研究補助金が45才以下に限定されることも多くなりました。私の部屋のドアには、ロシアの物理学者ミグダルの本からとった「自分で計算をやめた研究者は、年齢、素質に関係なく老齢化が始まる」という言葉が貼ってあります。私はこの言葉に大きな感動を受けました。毎日この言葉を眺めながら、若い人の邪魔にならないよう、これからも研究人生を大いに楽しむつもりです。

（岐阜大学工学部 電子情報工学科情報コース 教授）

土師 総一（電気・昭46、M48）

住まいのマンションがある神戸・六甲道の周辺は、更地が広がり地震の爪痕を何時も感じています。地震当日、高架のJR六甲道駅が潰れて崩壊した姿を見て、驚くのを乗り越えて、ただ佇んでいたことを今でも思い出します。その日から復旧でなくて、復興に全力投球でした。元に戻すのではなく「災い転じて福となす」ため、鉄道電気設備を如何にするかを考えました。電力供給の電車架線系のシンプル化、駅間自動閉塞信号機間隔の短縮、LEDを採用した信号機等々。保全効率化、コスト削減、列車運行間隔短縮、列車スピードアップ対応などの効果を出すべく復興でした。

地震で失ったものよりその後を得たものが、公私にわたって大きくなるよう、これからも努力していきたいと思っています。

（JR西日本 電気部 次長）

安東 孝止（電子・D52）

2年前にNTT茨城通研を退所し鳥取大学工学部（電気電子工学科）に勤務しています。大学では一昨年やっと博士後期課程ができ、来春一期生の博士を送り出せるよう奮闘しているところです。赴任して2年足らず、まだ事の本質を見極める暇のないまま日々走り回っている状態です。担当しています講座は光エレクトロニクス研究室で近赤外から青色までの化合物半導体レーザーや受光器の研究を17人（教官3名、学生14名）で進めています。研究設備の立ち上げ等、体を使うと言うよりは重労働そのものの毎日です。所謂仕事を

している実感だけはあります。懐かしい北千里のコンクリートキャンパスへはずいぶん長い間ご無沙汰しておりますが、学会等で恩師の先生方や先輩達と偶然お会いし御活躍されている様子を拝見するときなどは、大変嬉しくまた誇らしく思います。私自身も負けないよう頑張らなくては、と弱体に鞭打っていることろですが…。

(鳥取大学工学部電気電子工学科 教授)

池原 伸博 (電子・昭48、M50)

三菱重工業(株)に入社してから、今年の4月で丸21年になります。この間ずっと、名古屋にいて、主としてアビオニクス(航空機搭乗用電子機器)のシステム設計に従事してきました。現在は、次期支援戦闘機設計チーム(略称:FSET)に在籍して、防衛庁の次期支援戦闘機(FS-X;昨年末には正式呼称がF-2に決定)の開発に従事しています。昨年の10月7日に試作1号機が初飛行に成功したことを新聞・TVで御存知の方も多と思います。その後、試作1号機は、主に浜松沖のKエリアで社内飛行試験を続けているところですが、今年の3月下旬に防衛庁に引き渡されます。試作機は、全部で4機あり、単座型が2機と複座型が2機で、防衛庁に納入後、技術・実用試験(約3年間で計1000回ぐらいの飛行)に供されます。今年の9月末までに、4号機までを納入すべく忙しい毎日を過ごして居るところです。

(三菱重工業(株) 名古屋航空宇宙システム製作所)

木村 紀之 (電気・昭51、M53)

大阪工業大学に移って2年になります。ここには、櫻井学長を始め阪大出身の方も多く、電気工学科には漆電会の先輩がたがおられて、様々にバックアップを受け、心強い限りです。研究は、まだ立ち上げ段階ですが、パワーエレクトロニクス関連の研究室に所属して、電力変換器、アーム・ロボット、マイクロ電子ビームデバイス、と研究の間口を広げつつあります。この2年間は、昨年の阪神大震災を含め、大きな事件が次々起こったように感じます。その中で、今特に気になるのが、円高と、住専問題です。それというのも、96年度の就職担当を仰せ付かっているからです。現在の不況、買手市場では、(夜間部も合わせて)400人近くの学生総てに、就職先を世話するのは至難の業といえます。一人でも多く、早期に内定をもらえるよう、景気回復を祈るこの頃です。

(大阪工業大学工学部電気工学科 助教授)

伊藤 寧夫 (電子・昭52、M54、電気・D57)

入社して以来、本社と事業部の研究所で半導体メモリの研究開発に従事してきました。今、私はちょうど事業と研究の間の仕事をしています。現在、大容量のフラッシュメモリ(電氣的に一括消去・再書き込み可能な不揮発性メモリ)の設計に取り組んでいます。今後、携帯機器やデジタルスチルカメラ、パソコンなどに使用され、市場は拡大すると予想されています。しかし、このメモリのセル構造は比較的単純ですが、いくつかの種類が存在し、しかも仕様の統一がまだされていません。めまぐるしく変わる他社動向を気にしながらの日々が続いています。性能を上げるための新しいアイデアはないか考えつつ、今後も開発を進めていきたいと考えています。

(株)東芝 半導体デバイス技術研究所 メモリ技術開発部

糸 祐二 (通信・昭54、M56)

就職活動といえば当時指導教官の熊谷先生のエレベーター内での「君はどここの講座だったかね?」とか「関電で何をする気かね?」とかいう言葉を昨日の様に思い出す。

当時は電力会社の保安通信の設計で役にたてばという気持ちだったが、まさか OMP, KCT, KTM を始めとする第一種通信事業への参画等で通信が電力会社で表舞台に出ようとは思ってもよらなかった。当社自体に対しても光、無線をはじめとする伝送路技術の進展による電力系統の信頼度向上、情報の共有化を謳い文句とした LAN の構築による業務効率化等で通信部門は寄与してきた。ただ本業である電気を良い品質で安く売るという事にどういう貢献ができるのかといったトータル的に見据える力こそ我々に課せられた命題だと思っている。折しも電気事業法の改正により電力会社も競争の波に飲まれコストダウンが毎日のように叫ばれ、投資効率と信頼度バランスがキーワードとなっている。新技術もコスト概念抜きではやれず我慢の時代に入った。

(関西電力(株) 大阪北支店情報通信課長)

檜原 弘樹 (電子・昭59、M61)

濱口研究室では半導体物理学の最前線で勉強する幸運に恵まれましたが、一転して欧米を追いかける立場の宇宙開発に身を投じて10年になります。

当時は10年から20年は遅れていると言われていましたが、この頃やっと先進国の仲間入りをした、という手応えを感じています。

今、ひまわり5号が天気予報のための地球の画像を送り届けていますが、この衛星の画像処理装置は、今回初めて国産化に成功したものです。そして今年の夏には、汎用のコンピュータや VLBI 用の超高速信号処理装置を積んだ衛星が次々と打ち上げられます。これらの装置は私たちのチームが開発したものであり、同等の衛星搭載機器は他に見当たりません。

ようやく、欧米先進国のエンジニアと同じ高さの視線でディスカッションができるようになりました。

(日本電気株式会社 無線事業本部宇宙開発事業部搭載機器開発部 主任)

西中 哲郎 (電気・昭62、M平元)

阪急電鉄に入社して早いもので7年近くが経ちました。入社以来現在に至まで電気部に所属し、主に電鉄無人変電所の集中監視制御システムの設計、また、弊社梅田駅の旅客案内システムの設計、導入に携わってきました。

卒業後最も印象深かったことの一つは、担当者として設計し導入した梅田駅の旅客案内用大型表示盤に映像が初めて映ったときの感慨、もう一つは昨年の阪神大震災直後の「えらいこっちゃ」という気持ちです。特に阪神大震災では震災とその後の1年余りで、自然エネルギーの大きさと人間の底知れぬパワーを実感しました。今後、鉄道をシステム全体として自然災害に強いものにすべく、個々のシステム作りを行いたいと思っております。

(阪急電鉄(株) 鉄道本部電気部変電課)

相木 泰治 (電気・平元、M平3)

中国電力に入社以来、鳥取支店倉吉電力所に勤務しています。当社では、お客様サービスと業務運営効率



## 留学生の声

Feng Jieming (電子工学科・D1)

私は一年前に電子工学科の浜口研究室にきた中国からの留学生です。留学生として日本で勉強し生活してきて感じたことや思ったことなどを少し述べてみようと思います。

私は日本に来てから最初に感じたのは日本人が仕事する時に非常に真面目であることでした。研究室に1ヶ月に数回の定例報告会があります。そのとき、対象学生の一人ひとりの報告に対して問題点と目的の確認、提案する手法、実験および結果について細かく討論が引き続き行います。先生は終始一貫元気で学生に厳しくチェックなさいます。私は日本語がまだ上手になっていないので、最初に作成した報告原稿は先生または先輩にチェックしてもらいます。私の報告原稿はあとかたもなくほとんど書き直して頂くことになります。この作業を何回も何回も繰り返してようやく一つの報告になります。去年、私は鳥取砂丘へ向かう観光バスに乗りました。その時、ガイドさんが一生懸命にガイドすることについてもびっくりしました。一度も休まないで極めて丁寧に詳しく説明し、踊ったり、歌を歌ったりまでします。これは自分の仕事を完璧に果たそうとするからでしょう。

日本で暮らしていて、ごくたまにですが、外国人だからというだけで不動産屋に受け入れてもらえなかった、というような経験があります。そんなとき、日本人は外国人のことをあまり信用していないように感じました。もちろん、外国人のなかにもいい人と悪い人がいます。ただ、その見分け方が分からないから、その人は外国人を信用していないのだと思うのです。外国人のことをもっと知るようになれば、そんなことはなくなるでしょう。そのためには、お互いの交流が必要だと思います。そして留学生も、積極的に日本人と交流することです。日本語も上達します。研究室に閉じこもっているばかりでなく、その国の文化や習慣を学んでこそ留学したといえるのですから。

盧 毅 (電気工学科・M2)

私は日本で、4年間の留学生生活を過ごしました。もうすぐ大学を離れ、更に日本を離れるので、留学の間感じたことを少し述べたいと思います。

私が一番遠いと感じたのは、なによりも「仕事を最優先する」日本人の価値観でした。即ち、仕事は人生の目的であり、場合によっては人生そのものように考えられます。このことは中国でたびたび聞いていましたが、日本のあちこちで実感することができました。私の研究室は、完璧なそのような一つの組織社会だと思っています。研究室自体がそのまま一つの城で、教授は組織の上役であり、学生は部下であると思っています。教授は研究室の全責任を負い、対外的な仕事をして研究室が円滑に運営できるように努力し、学生は自分自身及び研究室のために勉強や研究に没頭すればよいのです。研究室以外の他の社会でも、このような仕組みをもつことにより、日本は個人主義のシステムを持っている欧米より効率的に仕事をすることができます。

次に感じたのは、日本人は、外国人に対する抵抗があるので我々留学生に対して特に誤解をしやすいことです。これは決して日本人を批判しているのではありません。逆に日本人はとても親切な人達だと感じております。留学生もこのことを念頭におきながら、日本人と接触してほしいです。誰しも外国へ行けば、その国では母国と違う文化や習慣に出会うでしょう。しかし、自分が他の人と付き合いたいという気持ちが強くなることによって、その国での生活が母国で送っていた生活と変わります。留学生は、せっかく世界に誇れ

る技術を持っている日本へやってきているので、できる限り日本人と仲良くして、仕事に対する日本人の素晴らしい精神や責任感を評価して欲しいと私は思います。

ここで最後に松浦研究室の皆様をはじめ、大阪大学で留学生を応援している皆様に心から感謝の気持ちを表したいと思います。一ヶ月後、私は中国での新しい生活を始める時、大阪大学での留学生活・いつもお世話になった日本人の友達・留学生の友達を折に触れて思い出すことでしょう。



劉貫一 谷 謙

### 滞電会会費納入のお願い

陽春の候、会員各位には益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。本会の活動に変わらないご支援を頂き有難く存じております。

滞電会の活動も漸く軌道に乗って参りましたが、諸般の事情により財政状況はかなり厳しい状態にあります。このため、平成6年度滞電会総会にて、平成7年度(1995年)から年間4,000円へ改定することが承認されました。ご了承の程、よろしくお願い申し上げます。

本会の活動は全て会員各位からの会費に依存しております。本会の活動をより活発にするために諸般の事情をぜひご理解賜り、何卒、平成8年度会費(4,000円)の早期納入(出来れば6月末日までに)にご協力賜りますようお願いする次第であります。

また会費納入の便宜を計るため平成3年度からは会費の自動振込制度も採用しておりますので是非ご利用下さい。なお、すでにご利用頂いている方の自動振替金額3,000円から4,000円への変更は滞電会事務局で手続きを行わせて頂きますので、御了承ください。また、預金口座の変更ご希望の方は滞電会事務局まで御一報ください。折り返し口座変更手続きに必要な預金口座振替依頼書をご送付致します。

なお卒業年度が昭和23年以前の方の会費は免除になっておりますので納入の必要はございません。また未納の過年度会費はご請求申し上げないことになっております。

滞電会会計幹事

## 講座紹介

### 電気工学科 制御工学講座



教授 熊谷 貞俊

制御工学講座の淵源は、電気第二講座として昭和34年、西村正太郎先生が御担当になった時まで遡る。以来、昭和58年、藤井克彦先生が第六講座より移られ、現在の制御工学講座の名称となり、平成7年1月より熊谷が担当している。この間、西村、藤井、鈴木3教授が工学部長を歴任され、また、250名を越す卒業生を輩出する文字通り伝統に輝く講座である。当初の電気機器自動制御からシステム理論、システム制御、さらに生体工学における先駆的研究において卓越した業績が蓄積されてきている。平成8年度の大学院重点化に伴い、伊瀬助教授、土居講師、内技官のスタッフならびに大学院生9名、研究生2名の陣容で、自律分散制御、マルチエージェントシステム、ペトリネット等の先端的手法を駆使した次世代生産システム、高レベル管理コントロール、非同期高速低電力消費回路の実現、生体システム計測や非線形数理モデルに関する研究、ならびに超電導技術を応用した電力システム安定化等にとりくんでいる。また下記の共同研究を実施中である。

- (1) 文部省科学研究費補助一般研究「医用3次元画像再構築とそのデータベース化に関する研究」
- (2) 通産省国際プロジェクト受託研究「次世代生産システムにおける情報システムアーキテクチャとプロセッシングに関する研究」
- (3) 原子力安全システム研究所委託研究「離散事象モデルを用いた原子力プラントにおける緊急時対策システムの開発に関する研究」
- (4) 文部省科学研究費補助一般研究「エネルギー貯蔵機能を持つ移相器による電力システムのアクティブ制御」
- (5) 文部省核融合科学研究所共同研究「密結合超電導コイルの電流制御」

## 母校のニュース

### 大阪大学における大学院重点化と工学部の動き

大阪大学における大学院重点化の一貫としての工学研究科の改革については、その計画のあらましを「滯電」No. 16 (1995. 4) で報告した。今回は大阪大学全体の動きと工学部の大学院重点化の進行状況を紹介する。

大阪大学では、現在理工系を中心に、大学院重点化が進行中である。大学院重点化は教育・研究の重点が学部から大学院に移ってきているという現状を踏まえ、教官の所属も学部から大学院に移すことを一つの狙いとしている。学内ではこれを大学院の部局化と呼んでいる。先生方の肩書は、例えば従来の大阪大学教授(工学部)から、大阪大学教授(工学研究科)に変わることになる。もう一つの狙いは言うまでもなく教育・研究体制の見直しである。

理学部、工学部の大学院重点化は平成7年度からスタートした。理学部は2年計画、工学部は4年計画で、工学部の大学院重点化の完成は平成10年になる。基礎工学部の大学院重点化は、一年遅れの平成8年度からで、これも理学部と同じ2年計画である。理工系の中では組織の大きい工学部の完了が一番後になる。

工学部において平成7年度には、従来の化学系(応用化学科、精密化学科)、精密工学科、応用生物工学科、応用物理学科および独立専攻であったプロセス工学専攻が再編され、分子化学専攻、物質化学専攻、応用生物工学専攻、応用物理学専攻、精密科学専攻および大学院専任の物質・生命工学専攻が作られ、教授のポストも46から49に増加した(他部局からの協力講座は除く)。おな、このポスト増はすべて定員の振替によるもので、純増はゼロである。この過程で教務員の助手への振替および助手の上級職への振替が行われ、結果として助手の総数は若干減少した。

従来の各部の各学科は応用自然科学という一つの

大学科にまとめられ、大学入試もこの単位で一括募集することになった。学生は2年進学時におおむね従来の学科に相当するコースに振り分けられるが、各コースのカリキュラムについては大幅な見直しが行われた。これは大学院重点化に伴い学部は基礎に重点を置いた教育を行い、大学院で専門に特化した教育を行うという基本方針に沿うものである。

大学院も従来の研究重点指向から教育と研究をバランス良く行うことに改められ、カリキュラムの大幅な拡充がなされた。同時に大学院進学については成績優秀なものは飛び級や修学年限の短縮ができるなど弾力的な制度に改められた。

平成8年度には、従来の電気系(電気工学科、通信工学科、電子工学科、情報システム工学科)、原子力工学科および独立専攻の電磁エネルギー工学専攻が再編され、学科と同名の専攻および大学院専任の電子情報エネルギー工学専攻が作られた。教授のポストは従来の32から38に増加し、助教授のポストも同じように増加した。前年と同じく純増はゼロで、教務職員の助手への振替は行われたものの、結果として助手のポストは若干減少した。なお平成8年度には、前年にはゼロ回答であった客員教授および助教授各1名づつのポストが認められた。このポストは民間からの登用を狙いとしたものである。

学部の各学科は電子情報エネルギー工学科という一つの大学科にまとめられた。入試もこの単位で一括募集する。学生は2年進学時に従来の学科に相当するコースに振り分けられるが、その後も多くの共通の専門基礎科目が用意されており、大学院への進学はコースの選択いかんにかかわらず自由に好きな専攻を選べるように配慮されていることが大きな特徴である。

重点化がスタートしてから、すでに大学院博士後期課程への進学者は、企業からの進学者を含めて、大幅に増加している。一層のご支援をお願いしたい。

(工学部長 鈴木 胖(電気・昭33、M35)記)

## 大阪大学先端科学技術共同研究センター

平成7年4月、民間等との共同研究を実施することを主務とする大阪大学先端科学技術共同センター (Cooperative Research Center for Advanced Science and Technology) が新設された。専任助教授および助手各1名の定員が純増で配当された。客員教授3名分も認められた。センター長は本学教授が兼任することが学内規定で定められた。

同年の補正予算で約2,000㎡の建物を新設する予算も付き、現在地上5階建て鉄筋コンクリートの建物を建設中である。建物の完成は平成7年5月末の予定であるが、水道の関係で実際の使用は6月末になる予定である。場所は総合研究棟の斜め北側で、建物の北面は道路に面し、南面は池に開けた大変立地条件に恵まれたところである。

建物の1階には、科学技術相談室、会議室、センター長室および事務室、2階には客員教授室、センター専任教官室、共同研究員室、情報プロジェクトスペースが設けられる。3階は全面恒久的な間仕切りのない多目的プロジェクトスペースとした。4階はバイオテクノロジー関連実験室で微生物実験室のほか恒温室や低温室も設けられる。4階は材料関係実験室でクラス10,000およびクラス1,000のクリーンルームが設けられる。

本センターは平成6年、筆者が総長補佐をしていた時に、大阪大学にも共同研究センターの設置を計画してはということになり、計画を立案、文部省への平成7年度概算要求を行って実現したものである。当初の計画は現在よりも規模の大きいニューアース科学技術共同研究センターを作るというものであったが、文部省との折衝の過程で今の規模に落ち着いたのである。これらのいきさつはセンターニュース創刊号に詳しく述べておいたのでそちらを参照していただきたい。

センターの計画作りの中心となったという経緯もあって初代センター長には筆者が選ばれた。同年8月から工学部長を拝命したが、センターのコンセプトを実現するには計画者でないと言

ことで引き続き、一応の目途がつくまでセンター長を兼任することになった。

共同研究センターは昭和62年度から、全国の国立大学に毎年3～4ヶ所づつ順次設置されてきているが、先端技術と名の付くものは、昭和63年度の名古屋大学、平成6年度の九州大学に続いて、3番目である。大阪大学先端科学技術共同研究センターは研究分野を広く設定しているのが特徴である。先端科学技術という名称から、ともすれば自然科学系とくに工学系の共同研究のみを想定しがちであるが、本センターでは社会科学系等を含めた異なる分野にわたる領域の共同研究や、民間と地方公共団体等複数の異なる主体にわたる共同研究も実施したいと考えている。

本センターの意志決定期間である運営委員会には理工系、医歯薬系に加えて人間科学部、経済学部、社会経済研究所の先生方にも参画をお願いしている。平成7年度の客員教授には、中京大学経済学部の鬼木甫教授 (元本学社会経済研究所教授)、大阪ガス(株)エクゼクティブエンジニアの片山紘一氏、(財)計量計画研究所主任研究員の外岡豊氏、松下電器産業(株)取締役、研究本部長・中央研究所長の新田恒治氏をお迎えした。平成8年度は客員教授を9名に増やす予定である。

建物は未だないが共同研究プロジェクトも、(1)リサイクル推進のための技術・制度・評価システムに関する研究 (相手方・地球環境関西フォーラム)、(2)地方行政体におけるマルチメディア利用に関する研究 (相手方・和歌山県田辺市) ほか3件をスタートさせた。平成8年度については継続分を含めてすでに10件のプロジェクトが内定している。うち6件は電気系からの提案である。

落電会の会員の皆様からの本センターへのより積極的な参画を期待したい。

(センター長 鈴木 胖 (電気・昭33、M35) 記)

## 工学部長に鈴木胖教授を選出

昨年6月に行われた工学部長選挙およびその後の臨時教授会によって鈴木胖先生が工学部長候補者として総長に推薦され、8月26日に就任されました。滯電会は、80有余年の歴史と5000名以上の会員を擁する伝統ある大組織ですが、来るべき21世紀に向けてわが国が重要な転機にあるこの時期に、滯電会から大阪大学工学部長という要職につかれる先輩を送り出すことができましたのは、日頃皆様が活躍しておられます分野が、国内外でいかに重要な役割を担っているかの現れと思われまます。

明治以来の日本の大学の歴史のなかで、昭和40年代半ばに盛んだった大学紛争をはじめとして外からの改革を求められることはしばしばありましたが、大学内部から自らの改革を求められるという未曾有の大事業である大学院重点化構想が現在工学部で進行中です。その舵取り役が鈴木先生に託されましたことは、工学部における先生への信頼・期待がいかに高いかを示すものといえましよう。先生におかれましては、工学部長就任以来この大学院重点化事業をいかに意義深く円滑に推進するかについて日々御腐心しておられますが、一方では、長期的な展望のもとで、大阪大学工学部が今後いかに大きく発展していくべきかについての将来ビジョン策定を既に開始され、そのためのワーキンググループも始動しております。その成果は、大阪大学工学部に留まらず広く工学教育および研究の将来の指標を与えるものとして期待されます。

さて、鈴木胖先生は昭和33年に大阪大学工学部電気工学科を卒業され、さらに、35年同大学院工学研究科修士課程電気工学専攻を修了、ただちに工学部助手に任用されました。40年に工学部講師、42年に助教授、45年に38歳の若さで教授に昇任され、工学部一般電気工学講座を担当、その後電気工学科第6講座（組織工学）を担当されました。工学部に情報関係の学科を創設するという長年の悲願が、電気系に工学部附属電子ビーム研究施設を加えて再編することで成就され、平成元年に情報システム工学科が新設されましたが、先生はこの事業の推進に

強力なリーダーシップを発揮されました。この学科新設に伴い情報システム工学科に移られ、現在は社会情報システム工学講座を担当しておられます。この間学内では、多くの委員会のメンバーとして貢献され、特に平成5年から大阪大学評議員（任期2年）を務められました。さらに、産業界等と大学との連携・協力を推進する中核施設として平成7年に先端科学技術共同研究センターが設置されましたが、先生はこのセンターの創設に多大な御尽力をなされ、初代のセンター長を務めておられます。今回工学部長に選出されたのもこれらの実績が高く評価された結果であると考えられます。

研究面では、システム分析を専門とされ、エネルギーシステム、総合地域開発計画、地球環境問題などの分野で御活躍です。これまで、関西国際空港、関西文化学術研究都市の建設などの大規模プロジェクトが及ぼす社会経済的影響評価に関して多大の貢献をされ、また、数理経済的な評価をベースに多様なエネルギー問題に警鐘を鳴らす貴重な研究成果をあげてこられました。このような御専門からも国および地域の長期総合計画、交通問題、エネルギー問題の御意見番としてさまざまな重要な委員会のメンバー就任要請が絶えず、国土審議会特別委員をはじめとして多くの委員を務めておられます。また、電気学会関西支部長などを歴任され、現在はエネルギー・資源学会の常任理事および企画実行委員会などを務められ、学界の発展にも貢献しておられます。

鈴木先生はその御人柄から学生の間でも人気が高く、平成6年11月の御還暦のお祝いの会には先生に御指導を仰いだ卒業生を中心に100余名もの出席者があり、楽しい会が行われました。そのときのお祝いの記念品はスキー用品一式でしたが、先生は激務の中で何とか寸暇を見出して毎年1回はスキーに行くのを殊の外楽しみにしておられます。

以上、工学部長への御就任を機会に、鈴木先生を御紹介申し上げるとともに、滯電会の皆様の鈴木先生への一層の御支援を心よりお願いする次第です。

・電子情報工（西尾章治郎（情報システム）記）

別冊「1」 情報工 工学部

## 教室情報

### ▼平成8年度四学科長

電 気 佐々木孝友 教授  
通 信 小牧 省三 教授  
電 子 西原 浩 教授  
情報システム 薦田 憲久 教授

### ▼電気系人事

#### 電 気

塚本勝俊＝講師に昇任(平7.10.1)  
森田龍弥＝辞職(平8.3.31)  
平木昭夫＝退官(平8.3.31)  
村上吉繁＝退官(平8.3.31)  
堺 一男＝助教授に昇任(平8.4.1)  
伊瀬敏史＝助教授に昇任(平8.4.1)  
土居伸二＝講師に昇任(平8.4.1)

#### 通 信

飯國洋二＝助教授に昇任(平7.4.16)  
京都大学から  
戸田裕之＝学内講師に昇任(平8.3.1)  
岡田博美＝辞職(平8.3.31)  
山本 幹＝助教授に昇任(平8.4.1)  
原 晋介＝学内講師に昇任(平8.4.1)

#### 電 子

鷹岡昭夫＝電子顕微鏡センターへ配置換え  
(平7.6.1)

裏 升吾＝学内講師に昇任(平7.6.1)

森 伸也＝講師に昇任(平7.6.1)

片山光治＝講師に採用(平7.10.1)

#### 情報システム

重松裕二＝情報処理教育センターへ配置換え  
(平7.6.1)

#### レーザー核融合研究センター

宮本修治＝辞職(平8.1.31)(姫路工業大学)

中島信昭＝辞職(平8.3.31)(大阪市立大学)

### ▼母校の教壇に立つ本会会員

・電気工学科「特別講義」

関西電力(株) 取締役

山崎吉秀(電気・昭33)

・電気工学科「特別講義」

JR 西日本鉄道本部 電気部次長

土師総一(電気・昭46)

・電気工学科「照明工学」

松下電子工業(株) 照明研究所主事

坪 秀三(電気・昭35)

・電気工学科「半導体工学2」

三菱電機(株) 取締役 映像システム開発研究所  
所長

中野隆生(電気・昭37)

・電気工学科「半導体工学2」

松下電子工業(株) 常務取締役電子総合研究所所  
長

加納剛太(電気・昭36)

・電気工学科「パワーエレクトロニクス」

三菱電機(株) 産業システム研究所パワーエレクト  
ロニクス開発グループマネージャー

打田良平(電子・昭42)

・電気工専攻「特別講義」

川崎製鉄(株) 水島製鉄所制御技術部長

土井克彦(電気・昭42)

・通信工学科「特別講義1」

日本電気(株) 支配人

林 宏美(通信・昭38)

・通信工学科「特別講義1」

松下通信工業(株) テレコム研究所所長

三浦 裕(通信・昭41)

・通信工学科「特別講義1」

日本電信電話(株) NTT 光ネットワークシステム  
研究所主席研究員

中川清司(通信・昭43)

・通信工学科「特別講義2」

三菱電機(株) 顧問

大西良一(通信・昭32)

・通信工学科「特別講義2」

(株)日立製作所家電情報メディア事業本部マルチ  
メディア開発本部企画センター長  
岸本清治 (通信・昭47)

- ・通信工学科「特別講義2」  
(株)富士通研究所パーソナルシステム研究所所長  
代理  
森田修三 (通信・昭43)
- ・通信工学科「特別講義」  
住友電気工業(株) 取締役支配人  
吉田健一 (通信・昭39)
- ・通信工学科「特別講義」  
松下電器産業(株) 海外 R&D 室部長  
福井 徹 (通信・昭38)
- ・通信工学科「特別講義」  
シャープ(株) 技術本部情報技術研究所第一研究  
部部長  
千葉 徹 (電子・昭47)
- ・通信工学科「音響工学」  
関西大学工学部教授  
野村康雄 (通信・昭36)
- ・通信工学科「情報電気系実験第2部」  
日本電信電話(株) 関西支社設備企画部調査課長  
山根浩顕 (電気・昭60)
- ・通信工学科「情報ネットワーク論」  
神戸商船大学商船学部助教授  
井上 健 (通信・昭52)
- ・電子工学科「特別講義」  
オムロン(株) 技術本部長専務取締役  
秦野 勲 (電子・昭37)
- ・電子工学科「特別講義」  
(株)日立製作所国際電機営業本部本部長  
村木 隆 (電気・昭39)
- ・電子工学科「光電デバイス工学」  
国際電信電話(株) ネットワーク本部海底線部技  
術開発担当次長  
若林博晴 (電子・昭44)
- ・電子工学科「集積回路工学」  
三菱電機(株) ULSI 開発研究所メモリ設計技術  
開発部第グループマネージャ  
藤島一康 (電気・昭48)

- ・電子工学科「分子電子工学」  
三菱電機(株) CRT 統括事業部主管技師長  
原田廣嗣 (電気・昭39)
- ・電子工学専攻「表面界面工学」  
(株)松下テクノリサーチ代表取締役専務  
平尾 孝 (電子・昭40)
- ・電子工学科「集積回路技術論」  
ディスプレイ・テクノロジー(株) 代表取締役社長  
島 亨 (電気・昭36)
- ・電子工学科「電子工学特別講義1」  
(株)野村総合研究所常務取締役関西支社長  
小早川護 (電子・昭43)
- ・電子工学科「電子工学特別講義2」  
日本放送協会放送技術研究所研究主幹  
森下洋治 (電子・昭39)
- ・電子工学科「電子工学特別講義2」  
新日本製鐵(株) 先端技術研究所半導体基盤技術  
部主任研究員  
森谷明弘 (電子・昭42)
- ・電子工学科「電子工学特別講義3」  
松下電子工業(株) 常務取締役電子総合研究所  
所長  
加納剛太 (電気・昭36)
- ・電子工学科「特別講義3」  
(株)日立製作所 中央研究所先端技術研究部主任  
研究員  
田地新一 (電子博・昭54)
- ・電子工学科「集積光学特論」  
NTT 基礎研究所材料物性研究部量子光学研究  
グループリーダー  
向井孝彰 (電子・昭50)
- ・情報システム工学科「ソフトウェア工学」  
シャープ(株) 取締役技術本部副部長  
河田 亨 (電子・昭41)
- ・情報システム工学科「計算機援用設計論」  
シャープ(株) 生産技術開発推進本部精密技術開  
発センター第4研究部技師長  
神戸尚志 (電子・昭51)
- ・電子情報エネルギー工学専攻「電子情報工学特  
別講義1」

関西電力(株) 情報通信室通信システム部長

佐野眞章 (電気・昭39)

・電子情報エネルギー工学専攻「電子情報工学特別講義1」

関西電力(株) 情報通信室情報企画部長

北本浩之 (電子・昭40)

・電子情報エネルギー工学専攻「電子情報工学特別講義1」

関西電力(株) 総合技術研究所副所長

中川興史 (電気・昭42)

・電子情報エネルギー工学専攻「電子情報工学特別講義2」

住友電気工業(株) 基盤技術研究所主任研究員

松本和久 (電子・昭46)

・電子情報エネルギー工学専攻「電子情報工学特別講義2」

日本電気(株) 情報メディア研究所信号処理研究部部長

西谷隆夫 (電子・昭46)

▼平成8年 学生見学旅行

電気工学科

3月6日 日本電装(株) 幸田製作所

日本ガイシ(株) 小牧事業所

3月7日 日本電気(株) 我孫子事業所

キリンビール(株) 横浜工場

3月8日 (株)日立製作所 中央研究所

ソニー(株) 中央研究所

引率教官: 佐々木孝友教授、伊藤利道助教授

参加学生: 38名

通信工学科

3月6日 (株)日立製作所 情報通信事業部

3月7日 松下通信工業(株) 佐江戸地区事業場

3月8日 シャープ(株) 技術本部マルチメディア

開発本部

引率教官: 小牧省三教授、塚本勝俊講師、岡田実

助手

参加学生: 42名

電子工学科

3月11日 古河電気工業(株) 千葉事業所・光技術研究所

3月12日 日産自動車(株) 追浜工場

三菱電機(株) 情報技術総合研究所

3月13日 富士写真フィルム(株) 足柄工場・宮台技術開発センター

引率教官: 西原 浩教授、栖原敏明助教授、藤村 昌寿助手

参加学生: 41名

情報システム工学科

3月11日 新日本製鐵(株) 君津製鐵所、総合技術センター

3月12日 NTTデータ通信(株) 豊洲本社、東日本旅客鉄道(株)

3月13日 (株)日立製作所 大みか工場、日立研究所

引率教官: 薦田憲久教授、大川剛直講師

参加学生: 33名

## 会員の方々の活躍

### 浜川圭弘教授が ウィリアムチェリー賞 ならびに紫綬褒章を受賞

本学 基礎工学部教授の浜川圭弘先生（電気・昭33、修士）におかれましては、1994年IEEEウィリアムチェリー賞ならびに、平成7年春の褒章におきまして「紫綬褒章」をお受けになりました。先生の長年にわたる、太陽光発電技術への際立った御功績および半導体の基礎物性に関する研究、特にアモルファスシリコンカーバイド新種半導体の開発と、そのバンドギャップ制御および価電子制御の成功とそのデバイス開発をめぐる著名な業績が受賞の理由です。

### 長谷川教授が ダ・ビンチ優秀賞 ならびにC&C賞を受賞

長谷川晃工学科教授（通信・昭32）は平成7年7月4日フランスのモヘットヘネシー・ルイビトン社から芸術のための科学、ダ・ビンチ優秀賞を受賞されました。この賞は当社が1988年に設立した賞で、芸術と科学を融合させる業績に対して贈られる賞であり芸術部門と科学があるが、ダ・ビンチ優秀賞は、そのうちの科学部門の一つの賞である。長谷川教授のソリトン研究の業績に対し贈られた。

また平成7年10月18日には光ソリトンを用いた「光ファイバにおける光ソリトンの発見と、その超高速光ファイバ通信への応用の道を開いた独創的、先駆的貢献」に対し、NECのC&C（Computer & Communication）賞を受賞された。この賞は小林宏治会長が1985年に設立した賞であり、電子計算機と通信の分野で世界的業績をあげた者に受賞される賞であり、平成7年度はAT&Tベル研究所のA.チャウ博士も分子線エピタキシー技術の発展で受賞者に選ばれた。

### 栖原敏明助教授が日本IBM科学賞を受賞

電子工学科栖原敏明助教授（電子・昭48）は、平成7年11月、「周期構造を用いた光集積回路の研究」により、日本IBM科学賞（エレクトロニクス分野）を受賞した。この賞は日本IBM社が基礎研究の振興と優れた人材の育成に寄与するため創設したもので、物理、化学などの分野で独創性の高い研究を行った6名に贈られる。本学としては同分野では初受賞です。

### 西原浩教授がMOC業績賞授与される

1995年10月18日～20日広島国際会議センターで開催されたThe Fifth Microoptics Conference（MOC'95：微小光学会議、応用物理学会隔年主催）において、「電子ビームおよびレーザービーム描画による回折光学素子作製法などハイブリッド集積光学に対するバイオニア的研究」に対して、同氏にMicrooptics Award（微小光学業績賞）が贈られた。

### 三間罔興教授が レーザー核融合研究センター長に就任 ならびに大阪科学賞を受賞

レーザー核融合研究センター長・三間罔興教授が、平成7年4月1日付けでセンター長に就任されました。また、平成7年10月31日、レーザー核融合における爆縮プラズマ物理の研究に顕著な功績を上げたことに対し、大阪科学賞を受賞されました。この賞は、昭和58年大阪府、大阪市及び（株）大阪科学技術センターが設立した賞で、理学・工学・農学・生物学・医学・薬学およびこれらの学際的分野における科学技術の発展に寄与した研究・開発に対して贈られるものです。

加藤義章教授が  
米国物理学会フェロー受賞

加藤義章教授レーザー核融合研究センター教授は、1995年11月20日、レーザー核融合及びX線レーザー研究における業績により、米国物理学会からフェロー称号が授与されました。この称号は物理学の分野で重要な科学的・技術的貢献した研究者に授与されるものです。本日お賞のこと。ナリ賞受き（複代ス

笠原正雄京都工芸繊維大学教授  
(通信・昭37修・昭40博)が  
電子情報通信学会  
基礎・境界ソサエティ会長に就任

※会員の方々の受賞につきましては、調査が不十分で記載もれが多いかと存じます。何卒ご容赦下さい。なお受賞につきましては、随時滞電会事務局にご連絡下さるようお願い申し上げます。

副会長の式の員会

3月13日 日本電機学会 東京  
賞受き賞学料大ニひらな  
賞受き賞学料大ニひらな

賞受き賞学料大ニひらな  
賞受き賞学料大ニひらな  
賞受き賞学料大ニひらな

## 同窓会だより

### 昭和30年電気卒業生同窓会

昭和一桁生まれ世代の我々が東野田学舎を巣立ってから40年。憶えば軍国少年として育てられ、戦後の混乱、重厚長大の高度成長、ハイテクから次の模索への現在と五つの大きな変革の渦中で生きてきた。

そこで12月のある日、30年卒一同、午後は吹田キャンパスの見学とゴルフコースに分かれて楽しみ、夜は同窓会に合流という運びとなった。

吹田キャンパス見学は、村上を案内役に新設の情報システム工学科、300万V電子顕微鏡、計算センターを巡り、滞電会の先輩、同輩、後輩が営々として築き上げた成果を目のあたりに多忙な時間を割いて説明を頂いた。最後は、新設のコンベンションセンターでのパネル討論「先端科学技術研究と大阪大学の使命」。金森総長、鈴木工学部長のコメントを聴講できる機会に恵まれた。

ゴルフ組は、岡田・中西両君の紹介で鳴尾ゴルフクラブ。西村正太郎先生を始め、東京や高知から参加を含めて総勢8名の参加があった。今回は久しぶりの同窓会の親睦を第一としコンペ形式をとらなかったため、めいめい夜の部への余力を残しながら自由に初冬の日を楽しんだ。

それにしても最近のハイテク技術応用機材のせい、スコアは別にしてみなさんのとてもお年とも思えないロングドライブには感心させられた。

夜の部はダイヘン岡田君の世話で料亭芝苑。恩師の山口次郎、西村正太郎両先生、安井晴子様を囲み20名が歓談した。両先生は、卒業時の主任教授、助教授。折からの不況で就職に多大のご心配をおかけした。同窓生当年63才。人生の節目に当たり、現役で活躍中、悠々自適、第二の人生模索中と多彩な人間模様の中で話は尽きなかったが、よわい92才の山口先生から変わらぬ叱咤激励の挨拶を賜りまだまだ修行への想いを深くしえた。



写真① 1列目左から：土井、安井、山口、西村両先生、岡田、村上  
2列目：長田、飯沼、周藤、山脇、原、池田、松井  
3列目：梅本、養父、春木、中西、村井、味村、松井、北川、高木  
(高木・村上記)

### 通信昭和40年卒—30周年台北ツアー

近代的な高層ビルが林立し、車・人・バイクが路上に溢れる一方、路地裏に入ると庶民の飾らない生活が残っている新旧渾然とした魅力的な街、台湾・台北に、その歴史・文化の探訪と中華料理の味体験のため、卒業30周年にして初めての海外旅行を敢行した。平成7年8月4日(金)～6日(日)の2泊3日にて、家族を入れて総勢24名—成田空港11名および関西空港13名(2名遅れて翌日参加)—が初日昼頃日本アジア航空にて台北・中正国際機場に到着合流した。午後日本語ガイド付バスにより台北市内観光を行い、龍山寺、中正記念堂等名のある観光地を見学した。夜は中国中部山岳地方の厳しい気候で食欲増進のための唐辛子などの香辛料をふんだんに使った四川料理を賞味し、その後台北名物の屋台街へ繰り込み、庶民の生活を垣間見た。2日目、観光組は、かの有名な中国5000年の歴史を物語る歴代皇帝の宝物を展示する故宫博物館—約70万点という所蔵物の多さと価値の高さから世界4大



博物館のひとつをじっくりと見るため、朝9時にホテルを出発し、一方ゴルフ組(2組8人)は、台北の北西海岸緑の東華ゴルフクラブにて、日頃の腕を競った。夜は、30周年正式パーティーと銘打って、日本では珍しい中国湖南料理を賞味した。3日目、空港への途中最後のショッピング時間を取り、カラスミ、ウーロン茶等大量のお土産品買いを楽しんだ。30周年という節目で思い切って海外旅行を企画/実行したが、異国の地にてあらためて旧交を温められ、すばらしい旅行であった。

(橋本了(通信・昭40)記)

### 電子工学科4期生

### 卒業30周年記念同窓会報告

日時:平成7年9月9日(土)・10日(日)

場所:館山寺温泉サゴロイヤルホテル

近年は約5年毎に同窓会を開いておりましたが、今回は卒業30周年記念ということで、浜名湖館山寺温泉で一泊、翌日はゴルフの会を行いました。

場所がやや遠いということで集まりを気にしていましたが、17名の出席でますますの盛会でした。宿に集まり浜名湖を一望する屋上の露天風呂などでくつろいだあと、揃って宴会をし、30年間の移り変わりを披露してもらいました。話しは尽きなく、続きは部屋での二次会でもはずんでいました。

翌朝、9名のゴルフ組は浜松シーサイドクラブへ行き、各自のゴルフを大いに楽しんでいました。優勝は予想どおり米田君でした。ゴルフをしない者は近くの館山寺を見るなどして、三々五々家路につきました。



田中君(電子・昭40)記

### 昭和41年度卒業

### 電気・通信・電子合同30周年同窓会

平成8年4月6日、昭和41年卒業電気・通信・電子3学科合同同窓会が夜桜咲き誇る桜宮の帝国ホテル大阪にて開かれた。今年は卒業30周年の節目の年に当たり、恩師の先生方をお迎えし、総勢60余名の同窓生が集い、旧交を暖め、恩師と語り合う宴となった。

新装ホテル白鷺の間において、森西君の個性ある司会と兜君のユーモアのある開会挨拶で同窓会はスタートした。恩師西村先生のスピーチ、尾崎先生の乾杯と進み、歓談会食しながら同窓生が各自の近況を報告し合った。

名誉教授の滑川先生、山中先生、中西先生、藤井先生、熊谷先生、児玉先生による含蓄あるご教示や励ましのお言葉を頂き、あらためてご指導ご鞭撻を賜った感があった。現役教授の寺田、鈴木両先生より現在進行中の大学院重点化構想など大学の現状についての説明を受け、また、湊電会事務局の安井さんより案内を兼ねたスピーチがなされた。

恩師を囲んだ記念撮影の後、前田君の閉会の挨拶で盛会の内にお開きとなった。知命の齢を越え、最も働き盛りの忙しい年代にも拘らず全国各地より駆けつけてくれた諸氏、やむなく出席できなかった級友のことを考えると、世話役の一人として感涙の想いがした。

(鷹岡(電子・昭41)記)

## 編集後記

本年度も昨年の阪神大震災やサリン事件の影を引き継ぎ、暗い話題の多い年でした。バブルの崩壊と住専問題を契機に表面化した国家財政への不安と経済界全体の沈滞ムードの下、大阪大学のなかでも真面目に勉学に励む学生の数が増えています。年末の電気系教官の親睦会（食堂会）でも、退官された先生方から現役教官に対して、厳しい社会情勢を踏まえた教育の必要性を強調されました。このような世の中の流れに沿って大阪大学の電気系も平成8年度からは大学院の重点化に移行します。新しい電子情報エネルギー系は、従来の電気・通信・電子・情報システム工学専攻の他、原子力工学専攻と電磁エネルギー工学専攻が加わった大所帯の組織です。組織改革に加えて大学院での教育カリキュラムも大幅に拡充されており、大阪大学の電気

系も大きく変貌しつつあることを強く感じた次第です。

ささやかな明るいニュースとしてはたった数日の間我々を楽しませてくれた百武彗星の出現があります。1万年以上もかけて太陽系を回る百武彗星を想いながら、滞電会会員の皆様が今後とも色々な分野で活躍され、来世紀の産業の発展に大きく貢献されることを祈っています。

この会報「滞電」も会員の皆様のご意見を取り入れてより良いものにしてゆきたいと思えます。ご意見、ご要望などがございましたらどしどしお寄せ下さい。

最後になりましたが、ご多忙中に拘らず原稿の執筆を快くお引き受け頂いた皆様方に心よりお礼申し上げます。

（編集幹事：谷口研二、河崎善一郎）

大西道文	藤原野世	堂本英樹	安部 武	佐崎良史	吉川善一郎	北川知幸子	前田幸希
岡本 洋	國原裕之	川岸正幸	山内弘貴	白柳品英	村上友近	新谷 剛	宮野寿晃士
岡本光央	寺越喜多美	木村慎吾	山野浩仁	多田典生	守安克二	高田一雄	山崎龍司
小川兼司	土屋昌幹	久村孝寛	吉井英樹	塚本貴広	山崎隆祐	荻原晋一	山本晋三朗
小川宇雄	長尾孝信	紅林倫太郎	吉田智敏	津川英信	吉村隆治		
小倉盛生	野村幸司	児島史秀	廣岡俊彦	恒川俊克	末平信人		
小塚智司	正富久貴			中尾 啓			
川崎高司	宗平浩明						
北川敦志	青田貴之						
衣笠 潤							
(以上、大阪大学工学部	(以上、大阪大学工学部	(以上、大阪大学工学部	(以上、大阪大学工学部	(以上、大阪大学工学部	(以上、大阪大学工学部	(以上、大阪大学工学部	(以上、大阪大学工学部
電気工学科から進学)	通信工学科から進学)	電子工学科から進学)	情報システム工学科から	工学部	工学部	工学部	工学部
	今村大地(金沢大学工学部)	菅原孝夫(関西大学工学部)					

## 事務局からのお願い

滯電会事務局へのお問い合わせ事項で目立ちますのは、「終身会員であるのに会費の請求をしてきた」ということです。これは、大阪大学工業会と滯電会とを混同しておられるためと思われますので、工業会と滯電会との関係について簡単にご説明いたします。

大阪大学工学部（その前身校を含む）には、学部全体の同窓会「大阪大学工業会」と学科または系の同窓会（たとえば電気系学科であれば「滯電会」）があります。したがって、滯電会の会員のうちほとんど全ての方は同時に大阪大学工業会の会員なのです。すなわち会員構成の面では滯電会は工業会の下部組織といえます。

ところが、工業会と滯電会とは財政的には全く独立しておりまして、それぞれが独自に会費制度を設けております。したがって、工業会会費をすでにお払いになった方、あるいは工業会の終身会員の方からも、滯電会会費（年会費一律4,000円）を頂戴しております。また、滯電会では終身会員制は設けず、毎年会費をお納め頂いております。

会報や名簿の発行などを含め、滯電会の活動は全て会員各位からの会費に依存致しております。滯電会の健全財政確立のため、今後とも会費納入につきましてよろしくご協力の程お願い申し上げます。

なお、勤務先、住所の変更などにつきましては、工業会とは別途に、滯電会にもお知らせ下さいますよう切にお願い申し上げます。

目 次

1. 電気の歴史と現状  
2. 電気の基礎知識  
3. 電気の安全  
4. 電気の応用  
5. 電気の将来

発行 漆電会  
〒565 吹田市山田丘 2-1  
大阪大学工学部電気系内  
06-879-7789(ダイヤルイン)